

文部科学省委託事業
平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコスクール地域交流会 in 関東・九州 発表事例集



はじめに

この小冊子を手にとっていただきましたことを心より感謝申し上げます。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は文部科学省の委託を受け、「平成24年度日本／ユネスコパートナーシップ事業」ユネスコスクール地域交流会を2012年11月に東京都多摩市で、2013年1月に福岡県大牟田市で実施しました。

この地域交流会は、ユネスコスクール間および地域拠点間のネットワーク強化を目的とし、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに全市的にESDの推進に取り組んでいる多摩市と市内の学校全てがユネスコスクールに加盟している大牟田市にて開催し、それぞれの地域において先進的なESD活動を行っている事例をはじめ、日本各地で実践されている様々なユネスコスクール活動の共有を図りました。

本冊子は、それぞれの地域で開催された地域交流会の様子を報告すると共に、地域との連携、はぐくみたい力、学校間交流、校内体制をテーマに行った分科会で発表された事例をもとに編集し、一冊のESD実践事例集としてまとめたものです。

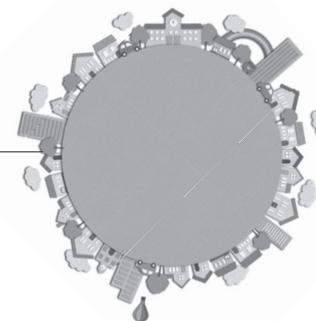
掲載されている事例をご参考に、今後みなさまのESD活動の促進に役立てれば幸いです。

2013年3月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

目次

はじめに.....	3
ユネスコスクール地域交流会 参加校・参加団体一覧	6



第1部

ユネスコスクール地域交流会 in 関東	10
●各分科会報告.....	13
●分科会の総括報告.....	18
●事例紹介.....	20

第2部

ユネスコスクール地域交流会 in 九州	72
●各分科会報告.....	76
●全体会 分科会振り返り.....	80
●事例紹介.....	84

資料編

●ユネスコスクール地域交流会in関東 開催要項・プログラム	130
●ユネスコスクール地域交流会in九州 開催要項・プログラム	132
●ユネスコスクールガイドライン.....	134
●ユネスコスクールとは.....	136
●ユネスコスクーラー一覧.....	138

参加校・参加団体一覧

in 関東

●地域との連携

多摩市立連光寺小学校	持続可能な未来をつくる力を育む	20
稲城市立稲城第二小学校	稲城坂浜プロジェクト	22
名古屋市立有松小学校	有松を見つめよう	24
留寿都村立留寿都小学校	るすつながり	26

●はぐくみたい力・学力

多摩市立多摩第一小学校	ESDで育む学力	28
伊豆市教育委員会	ESDで自尊感情を高める学びを	30
気仙沼市立大谷小学校	「大谷ハチドリ計画」の実践を通して	32
岡山市立第三藤田小学校	「つながり 感じ 高める子」の育成を目指して	34

●学校間交流

多摩市立東愛宕中学校	Japan Art Mileで学ぶコミュニケーション力	36
多摩市立豊ヶ丘小学校	きぼうのてプロジェクト	38
金沢市立味噌蔵町小学校	加賀藩祖 前田利家がつないだ絆	40
奈良教育大学附属中学校	奈良ASPネットワーク	42
多摩市立南鶴牧小学校	壁画の共同制作を通じた国際交流	44
稲城市立稲城第三小学校	タイ・ワタナー校との交流活動	46
大牟田市教育委員会	ユネスコスクールのまち大牟田	48
東京賢治の学校自由ヴァルドルフシューレ	3校合同古代オリンピック大会	50

●校内体制

横浜市立永田台小学校	輝く命を未来につなぐ教育=ESD	52
江東区立八名川小学校	ESDを踏まえた学校づくり	54
柏崎市立北鯖石小学校	WE LOVE 北鯖石 はばたこう未来へ	56
多摩市立東寺方小学校	校内研究にESDをとりあげる	58

●高等学校

国際学院高等学校	ESDを学校の恒例行事へ	60
筑波大学附属坂戸高等学校	インドネシアの姉妹校との交流	62
市原中央高等学校	人とのふれあいを通じて「国際人」を育てる	64
盛岡中央高等学校	体験からはじまる国際理解教育	66
広島大学附属高等学校	科学分野を通じた国際交流	68

in 九州

●地域との連携

大牟田市立中友小学校	地域とつながる共生社会の構築	84
大牟田市立玉川小学校	家庭・地域と連携した食育指導	86
大牟田市立延命中学校	地域に学ぶ「学びの旅」	88
玄海町立有徳小学校	玄海町の将来を考える	90
多摩市立東愛宕中学校	開かれた学校を目指して	92
羅臼町立羅臼小学校	ふるさとにヒグマがいる	94

●はぐくみたい力・学力

大牟田市立大牟田小学校	地域へのアプローチとウェビング	96
大牟田市立笹原小学校	野間川環境調査隊	98
大牟田市立白光中学校	HAKKOクッキー社の創立	100
岡山市立建部中学校	「たけべ学習」を通して	102

●学校間交流

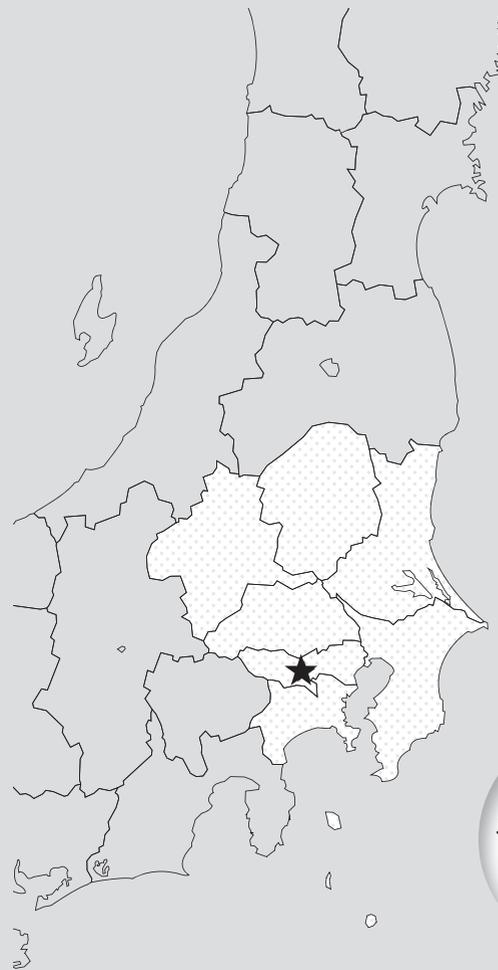
大牟田市立大正小学校	おおむたから世界へ	104
大牟田市立明治小学校	友好都市・中国大同市との交流	106
大牟田市立大牟田特別支援学校	地域との交流による共同学習	108
金沢市立西小学校	国際交流を通してつながる活動	110
大和町立鶴巣小学校	お米でつながるアジアの交流	112
多摩市立豊ヶ丘小学校	きぼうのてプロジェクト	38

●校内体制

大牟田市立吉野小学校	知ろう!守ろう!吉野の自然環境	114
大牟田市立駿馬北小学校	かかわろう、つながろう、きらめく駿馬	116
大牟田市立上官小学校	郷土愛・愛校心をつなぐESD	118
江東区立八名川小学校	ESDを踏まえた学校づくり	54
岡崎市立男川小学校	子どもが響きあう学校づくり	120
奈良市立月ヶ瀬中学校	持続可能な発展のための「持続可能な」取り組み	122

●高等学校

福岡県立武蔵台高等学校	地域歴史文化理解と国際理解	124
福岡県立城南高等学校	グローバル人材育成のために	126



第1部

ユネスコスクール
地域交流会 in

関東

ユネスコスクール地域交流会 in 関東



期日 2012年11月23日(金・祝)

会場 東京都多摩市 パルテノン多摩

参加者数 約 250名

発表者27名(英国人招へい者2名含む)、ファシリテーター6名
来賓・関係者約50名、一般参加者 約130名、多摩市の児童・生徒約40名

- ▶ ユネスコスクール教職員(北海道、岩手県、宮城県、新潟県、石川県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、奈良県、岡山県、広島県、福岡県)
- ▶ 教育機関関係者、教育・環境関係NPO/NGO、市民活動団体、企業のCSR担当者

「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、全市的に持続発展教育(ESD)の推進に取り組む多摩市において、地域内・地域間のユネスコスクールの交流の促進を目的とする「ユネスコスクール地域交流会in関東」を開催しました。

午前中のプログラムでは、さかなクンによる特別講義のほか、イギリスのサウスエンド・オン・シーより2名を招へいし、多摩市との交流事例をご発表いただきました。

午後は5つのテーマごとに、発表者による実例や成果発表を踏まえ、一般参加の方々も加わって交流するワークショップ形式で分科会を行いました。参加者それぞれが抱える課題や疑問に即した活発な意見交換がなされました。

参加者は北海道から福岡県まで全国から広く集まり、日本ユネスコ国内委員会事務局を訪問していた中国、韓国、タイ、スリランカのユネスコ国内委員会スタッフもオブザーバーとして参加しました。

開会
あいさつ



文部科学省 井村隆 国際統括官補佐



多摩市 阿部裕行 市長

交流会
趣旨説明



ユネスコ・アジア文化センター
島津正数 事務局長

特別講義
「多摩川の魚」



さかなクン 日本ユネスコ国内委員会広報大使/東京海洋大学客員准教授

クイズコーナーでは児童・生徒も積極的に参加し、魚や河川の環境問題に関する知識をたくさん得ることができました。

特別講演
「川をめぐる
国際交流」



多摩市教育委員会 清水哲也 教育長

英国からの特別ゲストお二人より、多摩川とテムズ川をきっかけとした多摩市とサウスエンド市の国際交流の実例や教育現場への影響などが発表されました。



講演Ⅰ「テムズから多摩へ 2012」
サウスエンド・エデュケーション・トラスト
サンドラ・ロバーツ CEO



講演Ⅱ「サウスエンド・オン・シーの学校生活」
チェイス高校 アリソン・ドミニー 副校長

英語
スピーチ



多摩市立多摩中学校 生徒

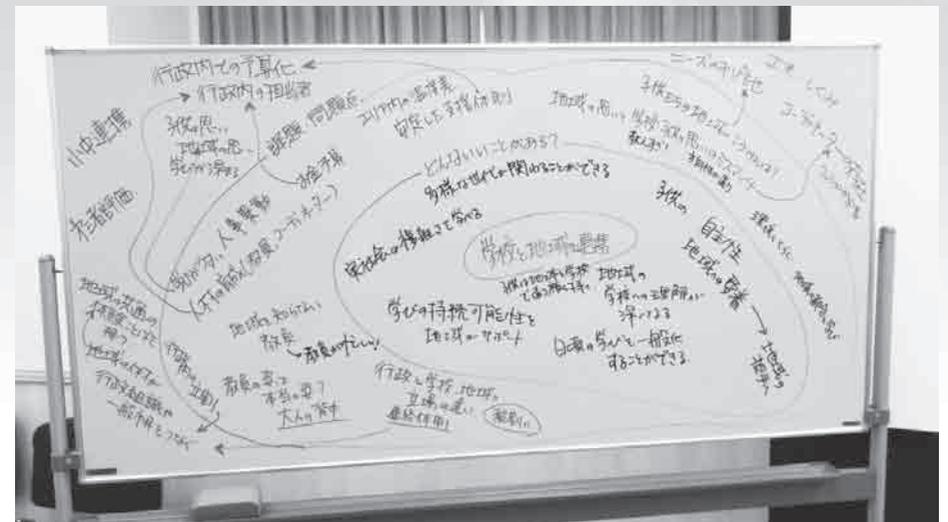
各分科会報告

地域との連携

ファシリテーター：多摩市立青陵中学校 佐々木雅一 教諭

当分科会には、学校関係者、地域の方、大学関係者など40名弱の参加がありました。まず4校の小学校から地域と連携した実践報告をしていただきました。各校共通するのは学校側が積極的に地域の宝物さがしをしている点でした。教員が地域を魅力的にとらえることが学校と地域の連携の出発点であると改めて実感しました。

その後の協議で、学校と地域と一緒に教育を行うメリット、課題、課題解決のための工夫の3点について、参加者全員でアイデアを出し合いました。地域と学校が共に教育を進めることで、子どもたちは多様な人とふれあう機会を得て、社会の複雑さを学べるというメリット以外に、活動自体が長続きする、学校への理解が深まるなど、学校経営上のメリットも浮かんできました。一方、学校と地域のスタンスの違いや、学校側の人事異動による影響などの課題も見えてきました。地域コーディネーターの重要性や、将来的には行政内にESDの担当者を置き、安定した支援体制の確立も必要であると議論が深まりました。



各分科会報告

はぐくみたい力・学力

ファシリテーター：多摩市立連光寺小学校 関口寿也 副校長

ESDにおいてははぐくみたい力や学力は何かと問われたとき、未来を見据えるESDの理念と、昨今声高に言われている学力との関係性は一見分かりづらい。4校の実践発表は、それを分かりやすく説き明かしていただいた。(1)基礎学力の上にある問題解決力。それがESDで育てるものである。(2)総合的な学習の時間を中心として、行っている学習を、組み直し、関連付けし、繋げていくことが大切である。(3)地域の鍵は何なのか、それがESDのヒントとなり、学力の向上につながる。(4)学力の向上には、継続していける組織やカリキュラムが必要である。

この発表を基に、小グループに分かれて討論をおこなった。そこで明らかになったことは、(i)現在行っている学習活動を有機的に繋げていくことで、問題解決力を育てる。(ii)育てたい能力を明確にすることで、ESDの内容が見えてくる。(iii)児童の資質能力の向上には、教職員の異動によって変わらない総合のプログラムが必須である。(iv)総合には“しかけ”が必要である。なぜこれが必要かと考えさせることが、持続可能性につながり、問題解決力をはぐくむ。というヒントが見えてきた。地球規模での希求の問題を乗り越えるために、ESDを通した学力の向上が求められている。



学校間交流

ファシリテーター：多摩市教育委員会 中谷愛 指導主事

発表者の方々からは、手紙、絵画、写真、ビデオレター、テレビ会議等のツールを効果的に活用した工夫された実践が報告された。交流の意義は、「児童・生徒が自分の考えを発信できる力」を身につけられることが共有された。さらに、継続的に交流を進めることによって、発信力とともに、住んでいる地域への誇りや、地域をふるさとであると思う心を育てることにつながることも確認することができた。

これらのことを踏まえると、交流の計画を立ち上げる際は、1年限りの内容ではなく、中長期的に、少なくとも数年計画でじっくりと行うことを視野に入れて進めていくことが、一定の成果につながると考えられる。また、交流を充実させていくためには、校内の連携はもとより、地域のさまざまな方々と協働しながら進めていくことが重要となることから、開かれたネットワークを構築していくことの重要性についても、あらためて確認することができた。



※学校間交流の分科会は2ヶ所に分かれて行われました。

各分科会報告

校内体制

ファシリテーター：多摩市立東愛宕中学校 富田広 校長

事例発表 概略

- 発表1 校内研究にESDをとりあげる（多摩市立東寺方小学校）
今までの活動をESD的に組み替えていながら、校内体制としては「ゆっくり理解を深める」ことが大切で、急な動きは共通理解を得られず混乱する危険がある。また、地域の教材化、人材活用など、息長く継続させる体制が必要である。
- 発表2 輝く命を未来に繋ぐ教育＝ESD（横浜市立永田台小学校）
教育活動をESDにゆっくり染める（気づき→実行→続ける→価値付ける）ような体制が必要である。「命の授業」では人、もの、こととの出会い、繋がりを大切にしながら、多角的な知識や総合的な視点を大切にしながら年間を通して進める必要がある。
- 発表3 教育課程編成からPTA・地域を巻き込み、ESDのパワーアップ交流会の開催まで、ESDを踏まえた学校づくりのノウハウについて（江東区立八名川小学校）
校長自身の問題解決能力が大切で、教育課程にESDを明確に位置付けをすることから体制を整えたい。その際、ESDカレンダーや単元展開表を活用し、横断的に総合的にESDを進める必要がある。
- 発表4 「学びをつなぎ未来をえがく子」を育成する教育課程の編成（柏崎市立北鯖石小学校）
今までの教育活動をESD的視点で見直す体制づくりから始め、「三つのつながり」の視点で進めてきた。特に、未来をえがく子としては、事象と事象、自分と事象、自分の学びの繋がりに気づき、仲間や社会へ働きかけ、よりよい社会の形成に参画させたい。

まとめ

ESDを教育課程に明確に位置づける必要がある。その際、慌てず、今までの教育活動をESD的視点で見直し、教職員の共通理解を得ることが出来る体制が必要である。



高等学校における交流活動

ファシリテーター：神奈川県立有馬高等学校 望月浩明 総括教諭

高等学校のグループでは海外の学校と交流活動を行っている事例が多く出されました。インドネシアの高校と共通の環境問題をテーマに学習活動を連携しながら実施し、一冊の本にまとめた取り組み。17校の海外姉妹校から生徒が来日し共通のテーマで学びあう国際フォーラムの取り組み。さらに、海外修学旅行等の機会に、現地校や現地NGOと環境問題、異文化理解などのプログラムを一緒に実施するなどの実践が報告されました。

一方で通学範囲が広範囲になるため地域との交流をどう進めたらよいか、という話題も出て、地域のユネスコ協会や住民の方々などと連携しながら地域交流・地域理解を進めるといった事例が報告されました。

また、最初は学校主導型のイベントを中心としたプログラムから始まるが、次第に生徒主体のものへ移行させることが大切だという声も多く聞かれ、海外の高校生と共同作業で科学実験を実施し交流を深めた例やユネスコクラブの活動についての説明がありました。



全体会 分科会振り返り

分科会の総括報告

玉川大学教育学部 小林亮 教授

2012年11月23日（金・祝）にバルテノン多摩で開催された「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」の午後、参加者は6つの分科会に分かれて、ユネスコスクールの直面する諸課題について、情報交換と事例や問題意識の共有を行いました。

第1分科会は「地域との連携」をテーマに議論が行われましたが、ここでは地域コミュニティのもつ豊かな人的資源をユネスコスクールの学校現場での教育活動にもっと活用すべきこと、またユネスコスクールが地域社会のためにどのような貢献をなすののかを明確にすべきこと等が論点として出されました。

第2分科会は「はぐくみたい力・学力」がテーマでしたが、ユネスコスクールにおける学習目標として、人間の多様性を認め、その文化的多様性に建設的に対応できる力を養うこと、そして人類社会が直面する種々の深刻な問題に対する問題解決能力を育成することが特に重要であるという認識が共有されました。

第3分科会と第4分科会は、「学校間交流」をテーマに行われましたが、とくに異なる地域間の交流、国際間の交流、そして異学校種間の交流において、それぞれが積み上げてきた教育実践の成果やリソースをどのように学び合い、共有していくのか、また交流する当事者同士が相手との違いと共通性の両方をどのように認識し、受け容れていくのが交流における緊要の課題であるという指摘がなされました。また地域特性をうまく生かした交流こそが長続きする鍵であるという意見も出されました。

第5分科会のテーマは「校内体制」でしたが、校長はじめユネスコスクールやESDに熱心に取り組んでいる教員が異動等で入れ替わった後、学校全体としてどのようにユネスコスクールの教育実践を持続していくのかという問題意識が共有されました。これについて、一部の先生方だけがESDに取り組むのではなく、学校全体としてESDを推進していくためには、「ESDカレンダー」のような科目横断的なホールスクール・アプローチを確立していく必要があるという指摘がなされました。

第6分科会は高等学校のグループでしたが、高校生の学力や成長段階に応じて、たとえば「アートマイル」に見られるような発信力やコミュニケーション力を鍛えるような国際交流をもっと積極的に行うべきだという意見が表明されました。また地域のユネスコ協会（青年部）とも連携した地域ぐるみの青年ESDプロジェクトを推進してゆく可能性についても提言が出されました。

全体として、今回のユネスコスクール地域交流会では、さまざまな学校種の先生方、また行政、NPO、大学、地域コミュニティという異なったセクターの方々が参加することにより、学校、家庭、行政、大学、地域をつなぐ学際的なESDのネットワークづくりがユネスコスクールの推進にとって決定的に大切であるという認識が明確に浮き彫りにされました。また英国サウスエンドの先生方はじめ、海外のゲストもお招きして議論に参加して頂いたことで、ユネスコスクールの地域交流はグローバルなネットワークにつながっていく営みであるというユネスコスクール設立の原点が今日的状況のもとで改めて認識されたことも大きな成果であったと言えるでしょう。



多摩市立連光寺小学校

東京都

 まつだ かずえ
 発表者：松田一枝 教諭・研究主任

持続可能な未来をつくる力を育む

新たなつながりを生み出す地域での学び



豊かな自然に恵まれた地域の「自然・人・社会」を活かした学習活動で育成を目指すのは、「かかわる・課題を持つ・課題を追究する・表現する・自分を見つける」という5つの力。児童たちは、学年ごとにさまざまな体験を通じて地域と繰り返し関わっていきます。持続可能な未来をつくることを見据えたこれらの教育活動が、地域との新たなつながりを生み出します。

目的

- 6年間の学習プログラムを通じて、地域への関心や愛着、その一員としての自覚を育てる
- よりよい社会の実現を目指す想いを育み、人と関わりながら問題を解決する力を身につける

活動内容

多摩川や都立桜ヶ丘公園など、近隣の豊かな自然環境を活かした体験教育活動に10年以上取り組んでいます。児童たちは発達段階に応じた各学年の目標に沿って、地元の人たちと交流したり、その自然に触れたりしながら少しずつ考える力を身に付けていきます。


 連光寺SATOYAMA
 プロジェクト

各学年の取り組み

- 1・2年生** 身近な人や自然に繰り返しかかわり・関心を持つ
 - ・園児との交流 ・高齢者の方との交流 ・公園の自然とかかわる
- 3年生** 地域の人々と関わり、学ぶ
 - ・保育園、児童館、図書館、地元商店等とかかわり、自分のできることを考えて、行動する。
- 4・5年生** 地域の特徴ある自然に学ぶ
 - ・多摩川や里山について自分なりのテーマを設定し、調べる。
 - ・生物多様性や生態系を学ぶ ・人間と自然の「共生」について考える
- 6年生** 地域を通して社会を学び、考える
 - ・地域の歴史を調べる ・社会保障の視点で地域を見つめ直す
 - ・社会の「共生」について考える



◀連光寺の歴史探偵

 ▼川は自然の宝箱
 ～わたしたちと多摩川～


活動のポイント

「育ちの地図」で児童の育つ姿を明確にイメージ

連光寺小学校では、「育てたい5つの力」を設定している他、2年前よりESDの視点を取り入れ、6年間の教育の先にある児童たちの将来の姿を意識した「育ちの地図」を作成しています。それは学習活動を計画・実践するうえでの指針となっており、地域社会の持続可能な未来を視野に入れた取り組みにつながっています。


 トライ！トライ！わたしたち
 にできること

 おじいさんおばさんとなかよ
 くしよう

学校情報

多摩市立連光寺小学校

学校長 阿閉 暢子

所在地 〒206-0021 東京都多摩市連光寺3-64-1

TEL 042-373-1920 FAX 042-337-7628

E-MAIL renkouji@educet01.plala.or.jp

稲城市立稲城第二小学校

東京都

 発表者：^{すずき ちづ}鈴木千津 教諭・研究主任

稲城坂浜プロジェクト

地域とのつながりのなかで紡ぐ学び

地域との連携



稲城第二小学校では、「2050年の未来を支える大人へ」という具体的な未来のイメージをもとに取り組みを行っています。地域とも連携を深めており、稲作への全校を上げての参加は38年間にも及ぶ代表的な教育活動となっています。児童、教員と一緒に外へ出ていくだけでなく、相談役である地域コーディネーターや学校PTAも巻き込むことで地域社会全体での取り組みへと発展させています。

目的

- 持続可能な社会づくり、2050年の大人づくり・市民づくり
- 地域から学び、地域に働きかけ、地域を活性化させる

活動内容

稲作への参加の他、生活科や総合的な学習の時間を中心とした様々な教科の中で地域の自然や人、歴史や産業に触れる機会を設けています。また近隣の上谷戸親水公園を題材に、公園作りの企画運営に携わった人や支えている人と出会ったり、塞の神という伝統行事について学んだり、地元・坂浜を取り巻くさまざまな社会や文化、環境について理解を深めることで、地域の未来を描ききっかけへとつなげています。



全校稲作活動の事例から

- 1・2年生 塩水選／籾まき（米づくり名人から技を学ぼう）
田植えの前の苗とり
- 4・5年生 昔ながらのやり方で田植えを体験
- 6年生 鎌で一株一株稲刈り、稲を干す
- 3年生 千歯こき／脱穀（昔の道具と今の道具を比較）
- 2・4年生 収穫したお米で餅つき・餅丸め



活動のポイント

稲作活動を通して学ぶ「感謝の気持ち」の大切さ

長年にわたって実施されている稲作活動では、米作りのすべての工程を6年間かけて経験。田植えの準備から収穫、餅つきまで体験した全校児童が集まって毎年行われる最後の収穫祭では、一年間の活動の中で支えてもらった地域の方々を学校に招き、完成したお餅をふるまっで感謝の気持ちを伝えます。人との関わりで大切なことを学ぶうえで貴重な場となっています。



学校情報

稲城市立稲城第二小学校

学校長 ■ 松坂 章二

所在地 ■ 〒206-0822 東京都稲城市坂浜590

TEL ■ 042-331-5709 FAX ■ 042-331-8421

E-MAIL ■ ina2show@educet03.plala.or.jp

名古屋市立有松小学校

愛知県

 すぎうらよしひろ
 発表者：杉浦好弘 教諭・教務主任

有松をみつめよう

地域を愛し、ともに生きる有松っ子の育成

地域との連携



有松学区は、江戸時代から宿場町として、また「絞り」の特産地として栄えた400年の歴史を持つ地域です。児童たちは郷土の歴史や伝統工芸について学び、体験学習を重ねることで地域との関わりを深めてきました。近年においては、ESDを「暮らす」という観点から捉えた取り組みが行われており、自分たちが住む町の文化やつながりについて学んでいます。

目的

- 「暮らす」という観点に基づいた活動を通じ、町の文化や人とのつながりを更に深めていく

活動内容

近年の取り組みは、それぞれ「伝統的な産業に触れる」「旧東海道の古い町並みに触れる」「郷土に伝わる文化に触れる」「行事等に関連づける」という4つのテーマに基づいて行われています。これらの活動を通じ、地域に密着した系統的な学習がより深められています。



4つの活動

伝統的な産業に触れる

- ・有松絞りの施設を見学
- ・絞りや染め遊びの体験（オリジナルTシャツづくりなど）

旧東海道の古い町並みに触れる

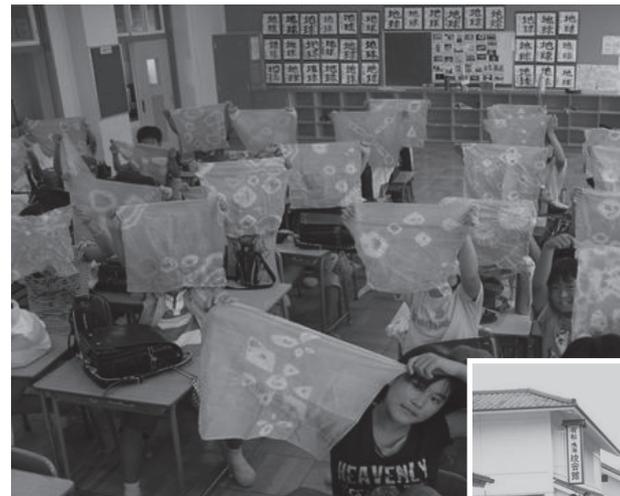
- ・江戸時代から残る貴重な建物について学ぶ
- ・町探検

郷土に伝わる文化に触れる

- ・まつりや学区に残る山車、おはやしについて学ぶ
- ・まつり、おはやしへの参加

行事等に関連づける

- ・学芸会や運動会等の学校行事で、活動の成果を発表・披露



活動のポイント

400年の歴史を誇る地区の特性を活かした活動

有松は「絞りの里」としてたいへん古い歴史を持ち、伝統工芸が現在でも受け継がれています。名古屋市内でも珍しいなまこ壁やうだつが上がる江戸時代の古い建築が残っており、「町並み保存地区」に指定されています。有松小学校ではこの歴史ある地域特性を活かした学習活動が行われ、児童たちは地域と共に生きることを学んでいるのです。

学 校 情 報

名古屋市立有松小学校

学校長 ■ 川本 哲也

所在地 ■ 〒458-0924 愛知県名古屋市緑区有松2803

TEL ■ 052-621-1071 FAX ■ 052-622-6652

E-MAIL ■ arimatsu-e@nagoya-c.ed.jp

留寿都村立留寿都小学校

北海道

 わたらいともひろ
 発表者：渡曾 朋広 教頭

るすつながら

持続可能な人づくり、むらづくり

留寿都村は人口2000人に満たない小さな村。そのため、持続可能な地域社会をつくることは身近な課題のひとつです。留寿都小学校では、農業・食を中心として、隣接の中・高校、コーディネーター、地域の人々が協力し合った学習活動を実施しています。これらの活動によって児童たちのふるさとへの関心を高め、地域の将来を担う人づくりを行うことが、未来のむらづくりにつながっていきます。

目的

- 地域の中で体験から学び、生活や文化を世代から世代へ継承していく
- ふるさとへの興味・関心を高め、未来のむらづくりにつながる基盤をつくる

活動内容

村の学校は小中高それぞれ1校ずつですが、隣接しているため連携した教育活動が行われています。特に農業に関する活動は、留寿都高等学校農業科とのこまめな打合せと、地域の人々や地元JA等のボランティアによる熱心な支援を得て大変充実しています。これらの活動を通し、小学生は自然の豊かさや農業・食への理解・関心を深めています。



スケジュール

5月 農業科の高校生の指導により、学校の花壇へ花植え

6月 高校の畑を借りて、大豆やとうもろこしを植える

9月 作物の収穫を手伝う
 収穫した作物を、地域のボランティアと共に調理加工体験
 昔ながらの方法や道具で大豆から豆腐やきなこをつくる

地域との連携



活動のポイント

明確な課題があるから、未来へ向けた進歩になる

教育活動を実施していく中で、小規模な村ならではの課題も生じています。地域社会の想いと学校側・児童たちの想いが必ずしもイコールにはならないこと、人事異動による継続した取り組みへの影響等。しかしこれらの課題を明確にして地域全体で取り組んでいく姿勢こそが、持続可能な社会を実現するための基盤となっていきます。



学 校 情 報

留寿都村立留寿都小学校

学校長 ■ 梶野 祐樹

所在地 ■ 〒048-1731 北海道虻田郡留寿都村字留寿郡174

TEL ■ 0136-46-3008 FAX ■ 0136-46-2478

E-MAIL ■ res-info@rusutsu-c.ed.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

多摩市立多摩第一小学校

東京都

 たなはしかん
 発作者：棚橋乾 校長

ESDで育む学力

総合的な学習の時間における問題解決学習の充実



ESDによって身に付ける学力とは何か。多摩第一小学校では、ESDを指導するうえで指針となる学力の4つの柱を設定し、教育活動を行っています。これまで総合的な学習の時間や通常の教科学習の中で取り組んできた、基礎的・基本的な学力の定着に加え、探求的な活動や問題解決型の学習指導によって、これからの時代を「生きる力」の育成を図っています。

目的

- 現代社会のさまざまな問題に取り組む意欲と能力をもった人材の育成
- 自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成

活動内容

基本的な知識・技能の「習得」からはじまり、それらをもとに考えをまとめて発表する「活用」、さらに問題解決的な学習や「探求」活動へと発展させる学習方法を実施しています。



多摩第一小学校におけるESD教育の4つの柱

1. 多面的・総合的に考える力（表現力、クリティカルシンキングを含む）
2. 未来志向の思考力・計画力
3. コミュニケーション能力・合意形成力・協力する態度
4. 意欲的な参加態度

これらは、生きる力の「…よりよく問題を解決する資質や能力」であり、OECDにおける「キー・コンピテンシー」とも一致した内容となっています。



活動のポイント 「ゴーヤプロジェクト」を通じた問題解決型学習

取り組み事例のひとつとして、4年生が「ゴーヤプロジェクト」を行いました。これは、ゴーヤの苗を市民に配布しグリーンカーテンを推奨することで、地球環境を守ることや、東日本大震災の被災地支援に役立てることへとつなげたプロジェクトです。児童たち自らが積極的に関わり、工夫して課題解決を図り、協力しながら取り組むことができました。



学校情報

多摩市立多摩第一小学校

学校長 ■ 棚橋 乾

所在地 ■ 〒206-0011 東京都多摩市関戸3-2-23

TEL ■ 042-375-7020 FAX ■ 042-337-7621

E-MAIL ■ _____

伊豆市教育委員会

静岡県

おおつか あきら
 発表者：大塚 明 学校教育課指導主事
 (前天城中学校校長)

ESDで自尊感情を高める学びを

生徒の心に自信と誇りを生み出し「生きる力」を育む



伊豆市立天城中学校では、これまで学校・保護者・地域の連携を基に、信頼に応える学校づくりを推進してきました。その中で課題となっていたのが、生徒たちの「自尊感情」。ESDを通じ、自分たちが暮らす身近な地域の自然や文化、歴史への理解を深め、地域の未来について自ら学び、考え、行動していくことで、生徒たちの自信や誇りにつなげ、「生きる力」を育てていきます。

目的

- 自分たちの暮らす地域を「持続可能な社会」に変えていく
- 生徒たちの自尊感情を高め、自ら学び、考え、行動できる「生きる力」を養う

活動内容

「さまざまな つながり」をキーワードに総合的な学習の時間をESDの視点で組み直し、地域での体験活動と地域の人とのつながりに重点を置き、福祉体験学習や自然体験学習・職場体験学習を実施しました。地域の自然や文化・歴史・産業等についての学習を通じ、地域の現状や地域の抱える課題への理解が深まりました。



各学年の取り組み

- 1年生** 福祉体験学習…テイサービス、介護老人保健施設等へ
自然体験学習1(八丁池登山)…天城の自然のすばらしさを知る
- 2年生** 自然体験学習2(天城縦走)…天城の自然が抱える課題を知る
職場体験学習…地域を支える仕事について体験を通して学ぶ
- 3年生** 修学旅行…京都・奈良をモデル都市として、10年後の天城を考える
地域学習…自ら考えた課題について地域に学び、地域の持続発展のための提言を考える
- 全学年** 総合発表会…各学年の学習成果(3年生は提言発表)



活動のポイント

Think Globally Act Locally

ESDカレンダーの作成により、各教科・道徳・特活と総合的な学習との横断的な関わりも重視し、自ら学び・考え・行動する「生きる力」をはぐくみました。地球規模の課題と地域社会の問題のつながりを理解して、地域社会の人々と共に、持続可能な天城の未来を模索しました。



学 校 情 報

伊豆市教育委員会 学校教育課

学校長

所在地 〒410-2592 静岡県伊豆市八幡500-1

TEL 0558-83-5472 FAX 0558-83-5498

E-MAIL kyouiku@city.izu.shizuoka.jp

気仙沼市立大谷小学校

宮城県

すがわらひろのり
 発表者：菅原弘倫 教諭・防災担当主幹

「大谷ハチドリ計画」の実践を通して

小・中連携を基にした地域における環境教育の推進



海・山・川の豊かな自然に恵まれた気仙沼市。大谷小学校では、隣接する中学校をはじめとして関連機関・施設とも連携し、交流活動や環境教育に力を入れてきました。中でも、環境教育の一環である「大谷ハチドリ計画」では、地元地域の自然環境に関する現状の課題についての理解を深め、調査・探求するという過程を繰り返すことで課題解決力を養っています。

目的

- 地域の自然、伝統文化、福祉、産業を総合的に捉え、興味・関心を引き出す
- 現代社会、地域の諸問題・課題に気づき、未来に向けた解決策を考える力を養う

活動内容

地域の自然環境を学ぶために、地域コーディネーターをはじめとした専門家の協力を得て特別授業を実施。また、大谷中学校ではじまった「大谷ハチドリ計画」の一環とし、小学校でも地域学習として取り組みを実施。地元の関係機関とも連携しながら、地域ぐるみで環境学習を行ってきました。

総合的な学習の時間に位置付けた取り組み

- 3年生** 震災前は、地元の涌根川での水生生物の観察や漁業協働組合、養殖組合の協力によるワカメの種はさみ体験に取り組んできましたが、震災後は、地域の野菜づくり名人から、ナス、キュウリ、トマトの苗作りから収穫までのプロセスを継続的に教わり体験することで、栽培農業の工夫等をまとめる学習を進めてきました。
- 4年生** 東日本大震災時に水の運搬や節約、節制などの体験から、「自分たちにできるエコプロジェクト」をテーマに、エコ活動について自分たちにできることは何かを考え、計画・実践してきました。
- 5年生** ふゆみずたんぼをテーマに、米づくり体験や水生生物、渡り鳥の観察等を通じた環境学習に取り組んでいます。学習のまとめでは、中学校3年生との合同学習で、ふゆみずたんぼの学習を通して、後輩に伝えたいことは何かについて意見を出し合う学習をしました。
- 6年生** 「大谷の木と水」をテーマに、宮城県農林振興事務所の職員から、松枯れの現状について学んだり、地域の川の水質調査や水資源を活用する小水力発電など、中学校との合同学習を行いました。



津波到達予想地図作成の様子

活動のポイント

東日本大震災を受け、防災教育が急務に

気仙沼市は、東日本大震災において津波による甚大な被害を受けました。地域の自然環境は大きく変貌し、地域学習のカリキュラムは大幅な見直しを迫られ、防災に関する教育の実施が急務となりました。5年生の「防災リーフレットをつくろう」では、自然災害の脅威の前に人間の能力や科学の力には限界があることを踏まえ、自分の命、地域全体の人々の命をどのように守るか、思考・判断する力を身につけさせるとともに、未来に夢や希望をもって新たなまちづくりをテーマに学習を進めてきました。今後は、発達段階を踏まえ、小中9年間で系統的、体系的な防災教育を進め、地域の将来を担う子供をはぐくみたいと考えます。

学 校 情 報

気仙沼市立大谷小学校

学校長	■ 畠山 雅宏
所在地	■ 〒988-0273 宮城県気仙沼市本吉町三島28
TEL	■ 0226-44-2202
E-MAIL	■ ohya-sho@motoyoshi.ed.jp

岡山市立第三藤田小学校

岡山県

おの みちこ
発表者：小野道子 教諭

「つながり 感じ 高める子」の育成を目指して

人や社会、自然とのつながりに気づき、かかわり方を見つめ直す



中学校区の小中学校と協働で、「つながり 感じ 高める子」という子ども像を目指しており、本校では「つながる」「かかわる」という2つのキーワードを設定しています。「つながる」とは、人・もの・ことに視点を置いて社会や自然を尊重する態度であり、「かかわる」とは、自分とのかかわりと他者とのかかわりの2つを指します。これらの考え方をもとに、低・中・高学年ごとに育みたい力を設定して活動を実施しています。

目的

- 児童たちが、人・もの・ことのかかわりの中で情報を得たり発信しながら成長していく
- 自分の生活とさまざまなものとの深いつながりに気づき、自分の生き方を見つめ直す

活動内容

生活科や総合的な学習の時間を中心に、学年ごとに育みたい力を設定しました。さらにESDの視点から、学習指導で重視する能力や態度についても検討を加え、単元構想やESDカレンダーを作成して授業や活動を行っています。



各学年の取り組み

- 3年生** レンコンのひみつをさぐるう
藤田のレンコンづくり農家を見学
- 4年生** 人にやさしい町づくり大作戦
「ゴミって何？」というテーマから環境について考える
- 5年生** プロジェクト八十八
20年後の藤田の米作りについての提案書をつくる
- 6年生** 幸せって何？
世界の様々な国と人のつながりについて考える



◀収穫祭



活動のポイント

地域の方の協力を得て、充実した活動へ

第三藤田小学校は岡山市南部、明治に干拓された児島湾の開拓地に広がる田園地帯に位置しています。全校139人という小さな学校ですが、近隣の学校や公民館、岡山大学他、地域の協力を得て充実した体験活動を授業に取り入れています。特に農業体験では地元農家の方の協力が不可欠です。

学 校 情 報

岡山市立第三藤田小学校

学校長 矢吹 憲策

所在地 〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田1757

TEL 086-296-2479 FAX 086-296-5243

E-MAIL fujita3s@city-okayama.ed.jp

多摩市立東愛宕中学校

東京都

 おおつかたけふみ
 発表者：大塚雄史 教諭・研究主任

Japan Art Mileで学ぶコミュニケーション力 壁画制作プロジェクトへの参加を通じた国際交流

学校間交流



多摩市の研究奨励校としてESDへの取り組みを行っている東愛宕中学校では、「校外との連携」の一環としてJapan Art Mileの国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加しています。このプロジェクトはインターネットを活用して海外の学校と協働して行う活動であり、生徒は壁画の共同制作を通じてコミュニケーション力や他者と協力する際の態度等を身に付けます。

目的

- 自分の意見を発信する姿勢や他者と協働する力を身に付ける
- 国際交流を通じ、異文化理解・自国文化への理解を深める

活動内容

2011年度には美術を選択している2年生十数名の生徒がアゼルバイジャン、2012年度には、美術部の1年生5名がキルギス共和国の学生と協働し、それぞれ壁画制作に取り組みました。生徒たちは電子フォーラムやSkypeによるTV会議を利用して、生徒同士の自己紹介からはじまり、壁画のテーマや構図、描き方等について話し合いながら、相手国の生徒たちと共に1枚の壁画を完成させます。



壁画作成の様子

スケジュール

- 6月 共同制作の交流先決定
- 7月 導入 自己紹介、調べ学習
- 8月 教員同士の交流（夏休み中）
- 9月 専用フォーラム、Skypeによる交流
- 10月 テーマの決定、構図の提案
- 11月 壁画の制作



完成した壁画

活動のポイント

ESDの5つの実践

東愛宕中学校では、豊かな人間性を育てる持続発展教育（ESD）の実践として、「かかわり」をテーマに「ボランティア活動（地域行事への参加）」、「職業体験（給金以外の価値観、企業の社会貢献）」、「校庭の芝生化の活用」、「グリーンカーテンと地域とのかかわり」、「学校外との関わり」の5つの柱に取り組んでいます。

学校情報

多摩市立東愛宕中学校

学校長 ■ 富田 広

所在地 ■ 〒206-0041 東京都多摩市愛宕 1-52

TEL ■ 042-374-9781 FAX ■ 042-337-7648

E-MAIL ■ higashiatagochu@educet01.plala.or.jp

多摩市立豊ヶ丘小学校

東京都

しばさきひろし
 発表者：柴崎 裕 教諭・研究主任

きぼうのてプロジェクト



東日本大震災の復興に関する活動から生まれた交流の場

2011年3月11日の東日本大震災を受け、豊ヶ丘小学校では児童たちが「希望の手ってどんな手？」というテーマの写真を作品として撮影しました。この活動が岩手県大船渡市立第一中学校にも波及し、同じテーマで美術部の生徒が作品を制作。最終的には巡回展覧会となって国内5か所で開催され、のべ3万人が来場しました。展覧会を通じてメッセージのやり取りなどの交流も生まれました。

目的

●図画工作科を通して児童の交流活動、授業を支援する

活動内容

展覧会に出品されたのは、全て被災後半年以内につくられた「震災」をテーマとした児童・生徒たちの個人作品です。2011年9月に東京・青山での展示会開催を皮切りに、岩手県、青森県、東京都多摩市、長野県、計5か所で作品が展示されました。来年度も、アメリカでの展示会、スペインでの巡回展などが予定されており、この活動は世界へもひろがりをみせています。

スケジュール

- 2011年6月 写真撮影の授業実施、作品の制作
- 2011年8月 岩手県大船渡市立第一中学校でのコラボ授業
- 2011年9月～2012年6月 日本国内5か所で巡回展を実施
- 2013年3月 フランスリヨン市にてリヨン東日本再生ビジョン展
- 2013年4月 アメリカニューヨーク市国連国際学校にて春の学園祭 東日本大震災関係展示会
- 2013年6月～2014年7月 スペイン各都市巡回
スペイン・日本友好400年記念 東日本再生ビジョン展



活動のポイント

入場者から寄せられたメッセージ、生まれた暖かな交流

震災後、復興への希望を託して制作された児童の作品に、展示会を訪れた人々からたくさんのメッセージが寄せられました。児童たちは作品制作・展示会を通じて想いを伝えることを実感として学ぶとともに、メッセージに対して返信の手紙を書くなど、新たな交流の場も創出されました。

学校情報

多摩市立豊ヶ丘小学校

学校長 ■ 小林 佳世

所在地 ■ 〒206-0031 東京都多摩市豊ヶ丘2-4-1

TEL ■ 042-371-3341 FAX ■ 042-337-7640

E-MAIL ■ _____

金沢市立味噌蔵町小学校

石川県

 新たにたかはる
 発表者：新谷貴晴 教諭

加賀藩祖前田利家がつないだ絆

学校間交流



1通の手紙をきっかけに26年間続く姉妹校との交流

味噌蔵町小学校の校区は兼六園、金沢城公園を含む、金沢の伝統文化が現在でも色濃く残る地域です。児童たちは四季折々の自然や、加賀友禅に代表される伝統工芸について学びます。その歴史や文化の学びを通して、姉妹校の名古屋市立荒子小学校と長年に渡って交流を続けています。1通の手紙という小さなきっかけが生んだこの交流が、学びを「発信する」活動としても大きな役割を果たしています。

目的

- 他校との交流を通して、地域間のつながりを学び、人と人との絆を実感する
- 総合的な学習で学んだ地域の歴史や文化を、発信することで地域のよさを学ぶ

活動内容

1986年からはじまった荒子小学校との交流。2001年以降、荒子小学校の児童が修学旅行で毎年金沢を訪れるなど親睦を深めています。児童たちはこの機会を「発信活動」として、日頃学んでいる金沢についての歴史や文化を冊子にまとめて紹介したり、伝統の加賀宝生を披露したり、兼六園等の名所を案内するなどさまざまなことに取り組んでいます。



兼六園案内

交流の内容

伝統「加賀宝生」披露

総合的な学習の時間に学んできた「鶴亀」を披露

「前田利家音頭」を覚えてもらう

教わった踊りは後に運動会で披露

地域に伝わる「めった汁」をふるまう

市内名所案内

尾山神社、兼六園、金沢城公園を案内



◀荒子音頭紹介

尾山神社案内▼



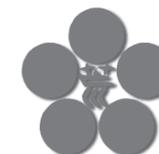
活動のポイント

戦国時代の武将、前田利家をきっかけに生まれた交流

そもそも2つの学校の間で交流が生まれたきっかけは、ある一通の手紙でした。実は、名古屋市荒子は戦国時代に金沢を統治していた加賀藩主・前田利家の生誕の地。1986年、それを知った荒子小学校の女子児童が当時の味噌蔵町小学校校長に手紙を出したのです。歴史が、遠く離れたこの2校を結びつけました。ちなみに2校の校章は、共に前田家の家紋である「梅鉢紋」のモチーフです。



味噌蔵町小学校校章



荒子小学校校章

学校情報

金沢市立味噌蔵町小学校

学校長 ■ 藤森 とも子

所在地 ■ 〒920-0931 石川県金沢市兼六元町7-15

TEL ■ 076-231-7279 FAX ■ 076-232-0515

E-MAIL ■ misogura-e@kanazawa-city.ed.jp

奈良教育大学附属中学校

奈良県

たにくちなおゆき
 発表者：谷口尚之 主幹教諭

奈良ASPネットワーク

学校間交流



ユネスコの理念を実現させる「地域の灯台」を目指して

全国でユネスコスクールが550校を数えるなか、各活動の「質」についての維持向上が課題となっています。2009年11月に奈良ASPネットワークを設立しましたが、その目的は、各校の主体的な活動の充実・拡大を図るとともに、ユネスコスクール本来のミッションである学校間交流を、まず身近な地域の中で実践し、たしかな「つながり」を生み出すためでした。

目的

- 各校の活動だけにとどまらず、地域内での交流・協力を深め、連携して活動を推進する
- ユネスコの理念を実現するユネスコスクール本来の使命を自覚し、日々の実践を重ねていく

活動内容

設立以来、担当者の会議を重ね、毎夏のESD子どもキャンプや教員の県外研修を実施。さらに今年度から奈良教育大学が事務局を担当し、大学生・大学院生も巻き込んで活動の充実を図っています。



2010～2011年度の活動

担当者会議の実施(1～2か月に1回)

- ・各校園の活動報告と情報交換
- ・ESD子どもキャンプ、研修に向けた打合せ

文科省の事業*による委託金の活用

- ・ESD子ども会議
- ・教員県外研修

震災支援活動

- ・気仙沼市のユネスコスクール活動再開に向けた支援

※日本/ユネスコパートナーシップ事業


活動のポイント

地域のネットワーク強化による成果

このネットワークは当初、各学校が十分な活動に取り組みていなかった状況に対する危機感から設立されました。現在では会議が定例化し、各学校へのサポート体制が定着することによって交流や情報交換の場が生まれ、地域の学校が孤立することなく活動を進められるようになりました。児童・生徒同士、教員同士もつながり合い、地域全体での活動へ発展する基盤がつけられつつあります。

学校情報

奈良教育大学附属中学校

学校長 ■ 松川 利広

所在地 ■ 〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町 2058-2

TEL ■ 0742-26-1410 FAX ■ 0742-26-1413

E-MAIL ■ _____

多摩市立南鶴牧小学校

東京都

 よしだ まさゆき
 発表者：吉田 正行 校長

壁画の共同制作を通じた国際交流

パキスタンについて知ろう！

学校間交流



環境教育や人権教育を基盤とした活動に取り組んでいる南鶴牧小学校。その一環として、Japan Art Mileの国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加しました。世界に目を向け、さまざまな国について学ぶところからはじまり、最終的にパキスタンの学生と協働で一枚の壁画を制作。文化背景や価値観が全く異なる同世代との交流・協働を体験しました。

目的

- 情報収集・発信力、コミュニケーション能力を高め、協働作業をする力を養う
- 自分や自国を見つめ直すとともに、異文化・価値観の異なる相手への理解を深める

活動内容

今回の協働校となったのはパキスタンの学校です。児童たちはTV会議を通し、日本の文化を紹介するためにけん玉や折り紙等の伝統的な遊びを利用したり、相手の名前を毛筆で書くなど工夫を凝らしました。交流にあたって、これまでの英語活動での成果を活かすことができました。



スケジュール

- 6～7月 世界に目を向ける いろいろな国について調べてみよう
 - ・海外赴任者の話を聞く
 - ・どんな国と交流したいか
- 9～10月 国際交流相手、テーマの決定
 - ・自己紹介ビデオの作成・発送～テレビ会議の実施
 - ・壁画の構図についての意見交換、構図の決定
- 11～12月 下絵描き 壁画半分完成・発送
- 1～3月 相手校側の壁画完成・発送
- 4月 壁画の鑑賞、活動の振り返り



活動のポイント

異なる文化に触れ「世界」への視点が開ける

活動を終えて、児童たちからは「パキスタンのことをもっと知りたい」「他の国とも交流してみたい」という声が挙がりました。遠く未知の文化であった他国との交流を通し、世界とのつながりを身近に感じることができたようです。また、「紛争のイメージがあったが、勝手に印象を決めつけないようにしたい」という新たな気づきもありました。

学校情報

多摩市立南鶴牧小学校

学校長 ■ 吉田 正行

所在地 ■ 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧5-43

TEL ■ 042-372-1860 FAX ■ 042-337-7641

E-MAIL ■ nantsuru@ttv.ne.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

稲城市立稲城第三中学校

東京都

 うめはら いくお
 発表者：梅原 郁雄 校長

タイ・ワタナー校との交流活動

日本の中学校一日体験

学校間交流



タイのワタナー校はバンコクの中心部にある女子校です。校内に「百人一首競技かるた」を行っている部活動があり、その活動の一環として部員数名が毎年来日し、稲城市にホームステイしています。稲城第三中学校では、2010年から「日本の中学校一日体験」として滞在中の女子生徒たちを受け入れており、生徒たちと相互の国の文化を紹介し合うなど交流活動を行っています。

目的

- 自国の文化を改めて学び紹介するとともに、相手の国の文化への理解を深める
- 異なる文化・価値観の相手とコミュニケーションについて学ぶ

活動内容

まずは英語の授業で、生徒たちが自己紹介と日本の紹介をしました。その後、家庭科の授業で一緒に調理実習を行い、茶道部の生徒によるお抹茶体験も実施。国語の授業では競技かるたの実演も披露しました。生徒たちはタイ語の予習をしてコミュニケーションを図っていました。



かるた大会の様子

一日の流れ

英語 互いの文化紹介、コミュニケーション

家庭科 調理実習（タイ風春雨サラダ）

給食 会食

国語 かるた大会・かるた作り

学校紹介 校長室・校内見学

部活動 茶道部にてお抹茶体験



調理実習



英語の授業▶

活動のポイント

積極的な国際交流、異校種交流の活動

稲城第三中学校では、国際交流活動だけではなく「異校種交流」にも力を入れています。近隣の保育園や幼稚園へは保育体験やボランティアへ、小学校へは入学準備冊子の制作や体験入学の準備、高校へは体験授業への参加、そして大学とは一日参観授業の受け入れ等。このような違う世代との交流も、生徒たちのコミュニケーション力を高める一助を担っています。

学校情報

稲城市立稲城第三中学校

学校長 梅原 郁雄

所在地 〒206-0812 東京都稲城市矢野口3043

TEL 042-377-7151 FAX 042-379-3423

E-MAIL inagi3j@educet.plala.or.jp

大牟田市教育委員会

福岡県

 発表者：^{こがのぶひろ}古賀信弘 指導主事

ユネスコスクールのまち大牟田

学校間交流



市内全校でESDを推進

大牟田市では、市内の公立小・中・特別支援学校あわせて34校が全てユネスコスクールに加盟しています。このような例は珍しく、大牟田では各校が連携して教職員の合同研修や、児童・生徒が参加する「子どもサミット」等を開催しています。このような学校間の交流を通じ、「ユネスコスクールのまち」として持続発展教育(ESD)に取り組んでいます。

目的

●学校間交流を通し、各校のユネスコスクールとしての教育活動を推進

活動内容

教職員の夏季研修会では、各校の実践報告を共有する他、講師を招き持続発展教育に関する理解を深めています。また、子どもサミットでは児童・生徒自身が発表を行います。2011年度は福祉や環境、郷土学習等の学習成果が発表されました。

スケジュール

1月 ユネスコスクール子どもサミット

- ・児童生徒相互の学習成果の発表、共有
- ・市全体の取り組みの充実
- ・保護者・市民に対して取り組み内容を広く紹介・啓発

8月 ユネスコスクール研修会

- ・教職員の共通理解の促進（ユネスコスクールおよびESDについて）
- ・ESDの学習内容の浸透



◀三池港



宮原坑▶



ユネスコスクール子どもサミットの様子

活動のポイント

広い交流によって将来的な目標も明確に

ユネスコスクール研修会は、市内の学校の教職員が実践報告を発表し合い共有する、たいへん貴重な場となっています。その成果として教育内容についての共通理解が促進されていますが、市内だけにとどまらない国内外のユネスコスクールとの交流推進や、ESD関連の教材開発、内容・方法の検討等、新たな目標も明確になりつつあります。

学 校 情 報

大牟田市教育委員会

 学校長 _____

 所在地 〒836-8666 福岡県大牟田市有明町2丁目3番地

 TEL 0944-41-2861 FAX 0944-41-2862

 E-MAIL _____

東京賢治の学校自由ヴァルドルフシュール

東京都

 発表者：^{ごとうようこ}後藤洋子 教諭

3校合同古代オリンピック大会

歴史学習の発展から生まれる交流



シュタイナー学校では、歴史の授業が5年生から始まります。その中の「古代史」についての学習から発展し、他の2つのシュタイナー学校と共同で古代オリンピックを模した合同大会を3年連続で開催しています。授業で学んだ共通の知識や体験を活かしながら他校の生徒と交流を図ることで、子どもたちははじめて出会う人とのつながりや結びつき、協働について学んでいます。

目的

- はじめて出会う人と積極的にコミュニケーションを取りながら、協力し合う。
- 仲間を応援し、勝ち負けにこだわらず正々堂々と競技する。

活動内容

授業で学んだ古代ギリシアのポリスを活用し、アテネ、デルフォイ、テーベ、スパルタの4つのチームで競技を行います。各校の子どもたちが深く関わりあえるように、2度の事前練習も開催。そのため、大会当日はチームが一丸となって競技に取り組むことができます。



活動のポイント

大会をきっかけに深まる交流

普段はなかなか他校と接点をもつことがないため、合同オリンピックは交流のよい機会となっています。大会で同じチームになった子どもたちが、事前練習や競技を通じて関係性を少しずつ深めています。この大会をきっかけに、個人的な交流も始まっています。



合同オリンピック当日の内容

- ・開会式 聖火点灯（火起こし）
歌・リコーダーの演奏
詩の朗読
- ・競技 円幅跳び、円盤投げ、槍投げ、レスリング、中距離走、リレー
- ・閉会式 歌・リコーダーの演奏
一人ひとりの取り組みを表彰し、オリーブの冠を贈る
聖火消火

学校情報

東京賢治の学校自由ヴァルドルフシュール

学校代表 ■ ヴィリギリウス・フォーゲル、小山郁夫

所在地 ■ 〒190-0023 東京都立川市柴崎町6-20-37

TEL ■ 042-523-7112 FAX ■ 042-523-7113

E-MAIL ■ info@tokyokenji-steiner.jp

横浜市立永田台小学校

神奈川県

 すみた まさはる
 発表者：住田昌治 校長

輝く命を未来につなぐ教育＝ESD

持続可能な社会は「命を育み、命を輝かせることのできる社会」



永田台小学校ではカシオ計算機の若尾久氏による「命の授業」を行い、全校児童が自分の命や全ての命を大切に、自分で考え行動できるよう、心の成長を目指しています。命のすばらしさを感じ取り、多くの命はつながり支え合っていることに気づくこと。それをもとに自分で考え、行動できること。このような広い視点を養うための教育が、社会の持続可能性を引き出すサイクルへとつながっていくのです。

目的

●持続可能性を学校全体で意識的に推進する

活動内容

多角的な知識と複合的な視点からの教育を行うため、永田台小学校では企業や地域との連携、他国との交流を取り入れて常に新鮮な授業を創り出しています。学校全体でESDに取り組むため、カナダヨーク大学のチャールズ・ホプキンス教授の“ESD実践の7段階”説を参考に「学校ESD指標」を作成しました。ESDの深化には7つの段階があると考えます。ESD指標のどこの辺りにあるか自覚することで、今後どう取り組んでいけばいいのかが見えてきます。



学校ESD指標

1. 無意識 良い教育活動を行っているが持続可能性は意識されていない
2. 意識化 持続可能性を意識し、募金や清掃、祭などのイベントを中心とした活動を行っている
3. ○○教育 環境教育や国際理解教育などとESDを結びつけて実践している
4. 教科内 教科の中に持続可能性の要素を入れ込んだ授業を行っている
5. 総合的・関連的 持続可能性を教科横断的につなげた指導計画による授業を行っている
6. 学校全体 ESDのコアを定め、持続可能性を学校教育全ての場に広げている
7. 地域社会 地域と学校の課題を共通のものとしてとらえ、地域社会の課題に向き合っている



活動のポイント

ESDはチャレンジ

人をつくり、命を育むため、持続不可能性を断ち切り、持続可能な社会を実現するのがESDです。その視点で再方向付けを示しているのがユネスコのDESD国際実施計画。ユネスコスクールはESDの推進拠点であり、なにをコアとして新たな方向付けを行うか、それを決めるのは各地域と学校です。新しいことを持ち込むのではなく、新しい視点を定め、常にそれを意識し、学校全体で何をどのように行うか考え、主体的に取り組むことによって、ESDの色に染めていきます。あるべき学校や子どもの姿、あるべき社会の姿を描き、日々の取り組みを大切に、地道にESDチャレンジです。

学 校 情 報

横浜市立永田台小学校

学校長 ■ 住田 昌治

所在地 ■ 〒232-0075 神奈川県横浜市南区永田みなみ台6-1

TEL ■ 045-714-4277 FAX ■ 045-713-3631

E-MAIL ■ y3nagatd@edu.city.yokohama.jp

江東区立八名川小学校

東京都

てしまとしお
発表者：手島利夫 校長



ESDを踏まえた学校づくり

PTAや地域を巻き込みESDの仕組みをつくる

八名川小学校では、ESDを「生きる力」の育成ととらえて教育課程に明確に位置づけ、PTAや地域の関係機関と連携し、児童の学びを支えるネットワークを構築してESDに取り組んでいます。校内のみの取り組みにとどまらず、PTAへの説明会開催や地域との交流会の実施、活動内容を報告する広報紙の発行等を通し、外部との相互交流を図ることで理解・協力を得、校内の活動を活性化しています。

目的

- 保護者や地域と協力・連携しながら、ESDを推進していく
- 組織的・計画的な取り組みによって、教える側に統一された共通認識をつくる

活動内容

教育課程の中にESDを明確に位置づけ、組織的な年間指導計画を作成しています。曖昧になりがちな評価基準等も細かく設定し、教員側の認識を統一。実践後のデータも校内のみでなく広報紙や交流会等を通してPTA・保護者と共有しています。

校内体制づくりで大切なこと

1. 校長がESDで学校づくりをするという覚悟を決めること
2. 教育課程にESDを明確に位置づけること
3. 校内研究と重ね、組織的・計画的に研究を進めること
4. 学年毎の年間指導計画を作成すること（New！ESDカレンダー）
5. 単元ごとの展開表を問題解決的に作成すること
6. パソコンに年度ごと、学年ごとのフォルダを作成し、教職員間で実践データを共有すること
7. 保護者にESDを含む教育方針の説明をして理解を得ること
8. 校内の実践交流から地域の交流へ発展させ、相互交流を促進させること

学年毎の年間指導計画をつくる

第6学年 ESDカレンダー								江東区立八名川小学校				
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			ようこそ、わたしの町へ		とんぼの俳句を比べる		平和について考える					
算数												
理科		動物に食べられる植物				電気の性質とはたらき					生物と地球の環境	
社会				江戸の文化をつくりあげた人々		長く続いた戦争と人々の暮らし		私たちの生活と政治		世界の中の日本		
総合			江戸・深川の歴史を調べ、この町を語ろう			太陽がくれたエネルギーとわたしたちの暮らし				世界の平和と日本の役割		
英語												
特活										八名川まつり		
道徳		長生きばんざい	地球があぶない			古きよき心		同じ地球の子どもたち		世界が100人の村だったら		
音楽							日本の音楽を味わおう			外国の友達の教室から		
図工												
体育		病原体と体の抵抗力					喫煙・飲酒・薬物					
家庭							日常の食事と調理の基礎					
環境的教育 多文化の理解 人権・命の教育 国際的な協力												

活動のポイント 「共有できる」計画を作成するために

八名川小学校で目指す問題解決型学習の過程は、「学びに火をつける」「調べる」「まとめる」「つたえ合う」という4つにカテゴライズされています。このように簡単な言葉で表すことによって教員の認識・イメージを統一し、問題解決的な指導に取り組みやすくしています。また、単元展開表をフォーマット化することで他の学校でも取り入れてもらいやすくなるように配慮しています。

学校情報

江東区立八名川小学校

学校長 ■ 手島 利夫

所在地 ■ 〒135-0007 東京都江東区新大橋3-1-15

TEL ■ 03-3631-2260 FAX ■ 03-3631-3127

E-MAIL ■ _____

柏崎市立北鯖石小学校

新潟県

 まきまさたか
 発表者：牧匡尚 教諭・教務主任

WE LOVE 北鯖石 はばたこう未来へ

ESD を中核とした教育課程の編成



北鯖石小学校では、目標とする「未来をえがく子」の育成を見据えて校内で新たな学習モデルをつくり、教育活動を実践しています。教育課程の編成にあたっては、斬新な活動を行うことよりも、学習指導要領の趣旨や教科書に準拠した通常の学習を基盤としたうえで「つながり」「かかわり」というESDの特徴を取り入れることに焦点を当てて教育活動を改善してきました。

目的

●ESD学習モデルの自校化を図る

活動内容

校内研究主題を「『学びをつなぎ未来をえがく子』を育成する教育課程の編成」とし、研究主題に迫るために「3つのつながり」の設定したESD学習モデルを設定しました。自然現象や社会事象、事象どうしの関係を「事象のつながり」、自分と事象や人とのかかわりを「主体のつながり」、そして価値観や行動、生き方について考えていく「内面のつながり」として、「3つのつながり」を意識して単元を構成しました。

ESD学習モデルの設定

1. ESDの捉え

- ・現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近な暮らしや地域と結び付けて取り組む (think globally, act locally)
- ・課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出す
- ・学校と地域の絆づくりを大切にしながら取り組む

2. 学びをつなぐ子の姿

①事象のつながり、②主体のつながり、③学びのつながりに、気付き、考え、新たな価値観をもつ。

3. 未来をえがく子

事象と事象、自分と事象、自分の学びのつながりに気付き、考えた子どもが、課題の解決につながる新たな価値観を身に付け、身の回りの仲間や生活、地域社会に働き掛け、よりよい集団、よりよい社会の形成に参画していく。



活動のポイント

主題を実現するための具体策

教師が3つの「つながり」を意識して、通常の単元のねらいから一歩踏み込んだ学習内容を設定して授業を行うことで、児童の思考を深めます。授業実践を通して、どのような手立てを講じることで教師が設定した「つながり」を児童たちが理解し行動化されていくかを研究することで、教材を扱う教師の力量も高まります。



学 校 情 報

柏崎市立北鯖石小学校

学校長 ■ 高橋 友子

所在地 ■ 〒945-0013 新潟県柏崎市 中田 1743-2

TEL ■ 0257-22-4454 FAX ■ 0257-20-1753

E-MAIL ■ kitasaba@kenet.ed.jp

多摩市立東寺方小学校

東京都

かとうあきら
 発表者：加藤明 教諭・主任教諭

校内研究にESDをとりあげる

ESD的視点でこれまでの活動を組み替える



ESDをテーマとして取り上げ、研究・実践を進めている東寺方小学校では、これまでの総合学習の時間やたてわり班活動として実施してきた活動をベースとして、新たな学習計画を作成しました。ESD的な視点から教育課程の見直し・組み替えを行い、これらの活動を継続して行っていくための校内体制づくりに取り組んでいます。

目的

- ESDの取り組みを、継続して実施できる校内体制の構築

実施内容

活動計画の実施にあたり、校内でESDカレンダーを作成しています。また、育みたい力を改めて立案し、それらに基づいた教育活動の提案・実践が行われています。

各学年の活動

- 2年生 いきものとなかよし大きくせん
- 3年生 自然観察マップをつくろう
- 4年生 エコ探検隊がいく
- 6年生 お米と私たち
- こま学級 そめものやさんになろう

活動のポイント 息の長い取り組みを実践するための課題

ESD活動を取り上げて研究する過程で、いくつかの課題も挙げられています。教職員間の共通理解を図ること、学校周辺の環境の教材化や地域の人材の活用、学年ごとの取り組みの全校への拡充、これまでの研究成果を継続して確認していくこと等、取り組んではいじめて実感を伴うことも多いようです。これらは今後、継続的なESD活動を実施していくうえで大切な視点となっていきます。



学校情報

多摩市立東寺方小学校

学校長 ■ 木下 光彦

所在地 ■ 〒206-0003 東京都多摩市東寺方100

TEL ■ 042-371-4151 FAX ■ 042-337-7631

E-MAIL ■ higashiterakata@educet01.plala.or.jp



国際学院高等学校

埼玉県

なかのまさや
発表者：中野雅也 教諭

高等学校の活動



ESDを学校の恒例行事へ

国際理解教育と環境教育を中心に

ユネスコスクールへの加盟後、「国際理解教育」と「環境教育」という二本の柱をもとにした教育活動を行っています。特に国際交流が活発で授業のプログラムも数多く、生徒にとっては価値観等の異なるさまざまな国や地域の状況や文化、環境について学ぶ貴重な機会となっています。また、環境活動においても生徒会が主体となり積極的な取り組みを行っています。

目的

- ユネスコスクールとしての自覚を感じることで、ESDへの理解促進
- ESDに関する時間を「単発」ではなく「恒例行事」にしていく

活動内容

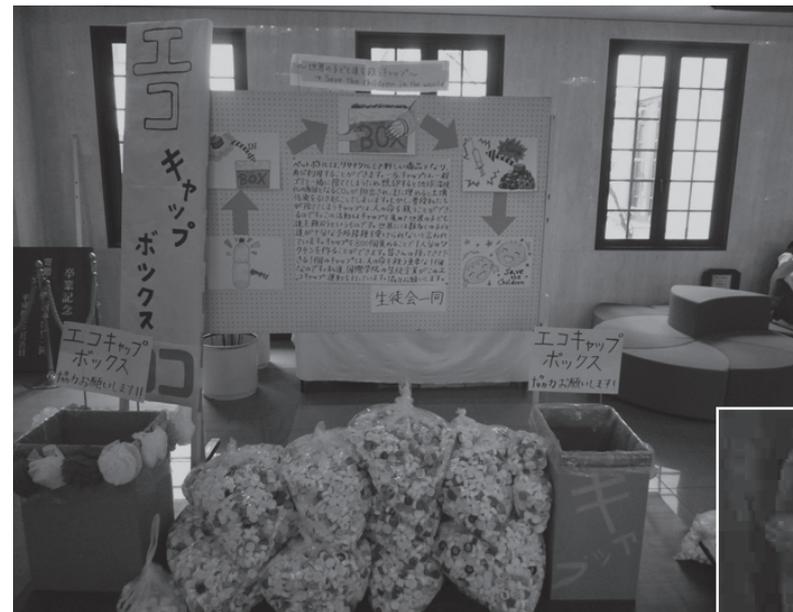
国際理解教育として、国立民族学博物館の講師を招いて講演会を実施したり、海外研修ではカナダ先住民との触れあい学習などを行いました。2011年より、ユネスコスクールESDアシストプロジェクトの助成を得て、「食を通じた異文化理解促進」を一つのテーマとして掲げ、第2学年食物調理コース生徒を対象に「トルコ料理勉強会」を行いました。今年度は、アジア地域の料理を焦点にした「タイ料理・マレーシア料理勉強会」を実施しました。



タイ、マレーシア料理勉強会

スケジュール

- 2010年度 多文化共生社会をテーマに国立民族博物館の講師による講義実施
第2学年海外研修においてカナダ先住民との触れあい学習
- 2011年度 トルコ料理勉強会
- 2012年度 タイ・マレーシア料理勉強会、世界異文化学習会



▲▲エコキャップ運動



活動のポイント

環境教育は生徒会が主役

環境教育の推進にあたっては、生徒会が活躍しています。エコキャップ運動やペットボトルアートの活動等、生徒が主体的に活動することによって全校生徒を巻き込み、地域の協力を得ながらESDの浸透を図っているのです。今年度は校内だけでなく、活動範囲を広げて地域に対しても同様のはたらきかけを行っています。

学校情報

国際学院高等学校

学校長 大野 博之

所在地 〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 10474

TEL 048-721-5931 FAX 048-721-5903

E-MAIL _____

筑波大学附属坂戸高等学校

埼玉県

いしいかつよし
発表者：石井克佳 主幹教諭

インドネシアの姉妹校との交流

「聞き書き」プロジェクトの実施

高等学校の活動



筑波大学の付属学校として、またわが国初の総合学科高等学校の研究校として、生徒のキャリア意識形成に関する教育研究活動を行ってきた坂戸高校。2000年から海外での校外学習がスタートして以来、インドネシアの学校との姉妹校提携をはじめ、米国・韓国・中国からの教職員視察受け入れや教員派遣、アジア諸国や欧米への生徒留学や生徒派遣ならびに留学受け入れ、ESD国際シンポジウムの開催等、活発な交流を行っています。

目的

- 生徒のキャリア意識を高め、コミュニケーション能力を養う
- 環境保全活動、農林業等の分野に対する興味・関心を喚起する

活動内容

坂戸高校では、2011年3月にインドネシア・ボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校提携を結び「聞き書き」による交流を進めています。日本とインドネシアとで、それぞれの学校の生徒が竹細工職人を訪問。互いの成果を発表して学びを深めました。この交流は筑波大学とトヨタの助成により実現したものです。



スケジュール

- 7月 日本国内で坂戸高校の生徒が「聞き書き」を実施
- 9月 インドネシア・コルニタ高校の生徒がインドネシア国内で「聞き書き」を実施
- 10月 コルニタ高校の生徒が筑波大学と坂戸高校を訪問、国際シンポジウムで発表
- 12月 坂戸高校の生徒がコルニタ高校を訪問、ボゴール農科大学で交流会
- 3月 コルニタ高校の生徒が坂戸高校を訪問、坂戸高校で交流会、聞き書き甲子園フォーラムに参加



「聞き書き」テキスト▶

ユネスコスクール公式ウェブサイトからPDF版をダウンロードできます。

活動のポイント

NPO 法人と連携した「聞き書き」プロジェクト

「聞き書き」とは、一対一の取材・インタビューを通して相手の知恵や技術、ものの考え方や生き方を学び、自らの言葉で記録することです。坂戸高校はNPO法人共存の森ネットワークが主催する「森の「聞き書き甲子園」」に参加しており、主に森林・林業への従事者を訪ねています。今後、オーラルヒストリーの実績が豊富な米国との交流も視野に、活動を続けています。

学校情報

筑波大学附属坂戸高等学校

学校長 ■ 加藤 衛 弘

所在地 ■ 〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田1-24-1

TEL ■ 049-281-1541 FAX ■ 049-283-8017

E-MAIL ■ gakumu@sakado-s.tsukuba.ac.jp

市原中央高等学校

千葉県

 きしまゆういち
 発表者：木嶋勇一 教諭・英語科主任

人とのふれあいを通じて「国際人」を育てる

高等学校の活動



地域から国際交流、そして持続的発展学習へ

市原中央高校では、国際交流活動を単に知識として世界を知るのではなく、生徒一人ひとりの価値観を広げるものと位置づけ、さまざまな取り組みを行っています。まずは、改めて自国の文化を理解するための地域交流活動にはじまり、生徒たちは世界各国の学生との交流、協働学習を通してコミュニケーション力やグローバルな視点を身に付けていきます。

目的

- 他者と協力して課題を解決する過程において、「ことば」としての英語を身に付ける
- 「人とのふれあい」を知り、それを活かせるバランスのとれた国際人の育成

活動内容

2012年度に行われたのは、中国からの大学生を招いたインターンシップです。中国の文化への理解を深めるとともに、「アジアの中の日本」という認識を生徒たちが持つことにつながりました。また、共通で設定された「水資源について」という学習課題をもとに、韓国、オーストラリアへの語学研修も実施しています。

JICA国際事情研修▶



各学年の取り組み

1年 韓国英語研修
・日本語、英語、韓国語を用いた交流活動

2年 オーストラリア語学研修
・「ことば」としての英語と、「人とのふれあい」の旅

3年 JICA国際事情研修
・国際社会の中における日本の役割について考える



◀オーストラリア語学研修



韓国英語研修▶

活動のポイント

「水資源について」という共通のテーマをもって語学研修へ

今年のテーマは「水資源」に設定され、生徒たちはまず、ユネスコスクールの教材である「ボルヴィック『お水の教室』」を活用して基礎知識を学びました。その後、1年生は韓国の英語研修の中で水の浄化方法について体験的に学習。2年生はオーストラリアにて水資源について学ぶプログラムを行っています。語学だけでなく、資源についての意識も高まりました。

学校情報

市原中央高等学校

学校長 ■ 真板 益夫

所在地 ■ 〒290-0215 千葉県市原市土字 1481-1

TEL ■ 0436-36-7131 FAX ■ 0436-36-7141

E-MAIL ■ i-chuo@ny.airnet.ne.jp

盛岡中央高等学校

岩手県

発表者：糸井真一 教諭

体験からはじまる国際理解教育

17校の国際姉妹校との交流を通じて



盛岡中央高校では、1995年から国際理解教育に力を入れて取り組んでいます。基本的に全生徒が異文化を体験する機会を設けており、カナダでのホームステイを含めた修学旅行や、短期留学等を実施。また、15か国17校に及び国際姉妹校と連携し、同世代の生徒たちが相互に交流できる場を創出しています。このように実際に「体験して学ぶ」機会を通し、生徒の視野を広げています。

目的

- 実際に「体験する」ことを通し、異文化への理解、同世代間の相互理解を深める
- 多面的な問題把握と、国際協力の意義を理解する

活動内容

さまざまな国への短期留学、相互の授業参加に加え、姉妹校を招いた国際教育フォーラムを毎年1回開催しています。共通のテーマを事前に設定・共有したうえで盛岡に集まり、各国の生徒たちがそれぞれプレゼンテーション。交流会での議論も行われ、ひとつの課題についての多面的な視野を「体験」する場となっています。

フォーラムのテーマ

- ・食文化の違い
- ・各国教育事情
- ・子供の人権問題
- ・東日本大震災と復興
- ・環境問題→世界全体の課題として



活動のポイント

修学旅行は海外へのホームステイ

原則として生徒全員が海外での生活を体験する学習プログラムとなっているため、修学旅行にも海外でのホームステイが盛り込まれています。生徒たちはホストファミリーとの生活を通し、さまざまな体験を通して文化や歴史の違いについて学びます。出発前に不安がる生徒も中にはいるようですが、帰国までにはホストファミリーとすっかり打ち解けているようです。

学校情報

盛岡中央高等学校

学校長 ■ 富澤 正一

所在地 ■ 〒020-0122 岩手県盛岡市みたち4-26-1

TEL ■ 019-641-0458 FAX ■ 019-641-5533

E-MAIL ■ info@chuo-hs.jp

広島大学附属高等学校

広島県

たかた さとる
発表者：高田 悟 教諭・ユネスコ協同学校推進室長

科学分野を通じた国際交流

高等学校の活動



スーパー・サイエンス・ハイスクールの活動を通して

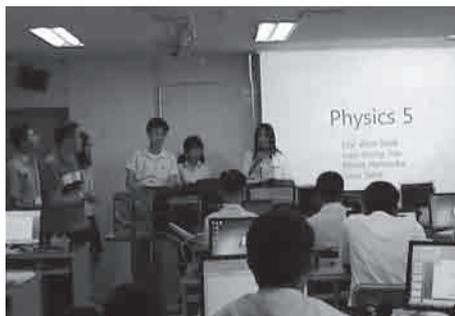
広島大学附属高校はスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の指定を受けており、10年間の活動実績があります。現在実施されているのは、科学の共同研究を通じた海外の高校との交流です。近年では、韓国とドイツの高校と連携し「ESDのための内容開発」として、生徒たちが現地へ赴いて共同の研究活動を行いました。

目的

- 科学研究を通じたコミュニケーションによる、異文化理解や国際理解の促進
- 地球的テーマに取り組むことにより、地球市民としての自覚を育てる

活動内容

韓国との共同研究では、LED電球やバイオディーゼルの物理や化学領域のテーマに取り組みました。互いの国の文化紹介からはじまるプログラムでは、科学ゲームを通じてコミュニケーションを図った後、講義や実験等を合同で実施し、最終的にはグループでの発表まで行いました。



物理グループのプレゼンテーション

韓国での研修日程

- 1日目 学校紹介、自国紹介、自己紹介
- 2日目 合同での科学ゲーム、現地見学、ホームステイ
- 3日目 合同講義・実験、発表
- 4日目 ソウル景福宮、南大門市場見学



活動のポイント

限定された分野でのコミュニケーション効果

科学的な研究テーマを海外の学生と共同で探求するためには、共通言語としての英語と、自然科学という限定的な共通概念によるコミュニケーションが必要になります。共通の専門分野を前提としたこれらの交流は、そこから進んでお互いの背景にあるそれぞれの文化を理解しようとする意識を醸成し、有意義な国際交流へと発展します。

学 校 情 報

広島大学附属高等学校

学校長 古賀 一博

所在地 〒734-0005 広島県広島市南区翠1-1-1

TEL 082-251-0192 FAX 082-252-0725

E-MAIL ml-unesco-fsc@ml.hiroshima-u.ac.jp

第2部

ユネスコスクール
地域交流会 in

九州



ユネスコスクール地域交流会 in 九州



期日 2013年1月11日(金)

会場 福岡県大牟田市 オームタガーデンホテル

参加者数 約380名

発表者 24名、ファシリテーター4名

来賓・関係者50名、一般参加者145名、大牟田市の児童約160名

▶ユネスコスクール教職員(北海道、宮城県、石川県、東京都、愛知県、奈良県、岡山県、福岡県、佐賀県、熊本県など)

▶教育機関関係者、教育・環境関係NPO/NGO、企業のCSR担当者

2011年度に市立34校全ての学校がユネスコスクールの承認を受けた福岡県大牟田市において、ユネスコスクール地域交流会in九州を開催し、全国各地からユネスコスクール教職員が集い、先進事例の発表を行いました。

午前中のプログラムでは、「大牟田のESD」として、全市を挙げてのESD推進への取り組みを発表、児童も参加して環境教育実践事例「知ろう！守ろう！吉野の自然環境」や地元で伝わる「漏イネ踊り」を元気に披露しました。

午後の分科会では、「地域との連携」「はぐくみたい力・学力」「学校間交流」「校内体制」に分かれ、大牟田市内から12校、全国各地より12校、計24校のユネスコスクールが事例・成果発表を行い、参加者が他校の取り組みを参考としたり、触発されたりする機会となりました。

関係者が一同に会し、出会い、ひろがり、つながる交流の重要性を再認識したとともに、持続可能な社会を担う人材育成に向けての手がかりが随所に見られた交流会となりました。

開会
あいさつ



文部科学省 岩本渉 国際交渉分析官



大牟田市 古賀道雄 市長



福岡県教育庁 城戸秀明 教育企画部部长



交流会趣旨説明
ユネスコ・アジア文化センター
島津正数 事務局長

基調講演
文部科学省



文部科学省 岩本渉 国際交渉分析官

大牟田市の
ESD



大牟田市教育委員会
宮田忠雄 教育長



ユネスコスクールのまち 大牟田
大牟田市教育委員会指導室 杉野浩二 指導主事

特別講義



さかなクン 日本ユネスコ国内委員会広報大使 / 東京海洋大学客員准教授

約30種もの有明海に棲むお魚の話や魚クイズで楽しい特別講義となりました。



知ろう！守ろう！吉野の自然環境
吉野小学校 5年生・6年生



漏イネ踊り 手鎌小学校

閉会
あいさつ



奈良教育大学 加藤久雄 副学長



荒尾市教育委員会 丸山秀人 教育長
(代読:西村泰治 教育部長)

各分科会報告

地域との連携

ファシリテーター：大牟田市立白光中学校 川満佳代子 校長

6校の発表では、ESDの視点に立った学習活動として、地域とのつながり・かかわりをもとに、子どもたちが地域のために、自分たちができることを具体的な活動として実践している様子が報告されました。北海道羅臼町のヒグマ問題や佐賀県玄海町の地域産業における課題把握の様子、大牟田の高齢化に対応する子ども民生委員やペアウォーク、一人暮らしの高齢者訪問など、子どもたちの行動する姿を知ることができました。その後「地域とのパイプを太くするための手だて」を中心に協議が行われましたが、福祉・環境などテーマは違ってもふるさとである地域が抱える課題を子どもと大人が共に解決していこうとする姿勢、行動力を地域も求めており、社会を担う人づくりを後押ししてくれることを確認しました。

また、多摩市立東愛宕中学校からは、「人と人、人と社会、人と自然」のつながりについて、5つの実践ごとに具体的に聞くことができ、地域連携推進のスキルを学ぶことができました。



はぐくみたい力・学力

ファシリテーター：金沢大学 鈴木克徳 環境保全センター長・教授

「はぐくみたい力・学力」の分科会では、大牟田市立大牟田小学校の堤さゆり教諭、同市立笹原小学校の原田賢浩教諭、同市立白光中学校の菅原幸典主幹教諭、岡山市立建部中学校の能登律安校長、福岡県立武蔵台高校の溝田康彦主幹教諭及び同県立城南高校の二宮浩司教諭が発表しました。

それらの発表では、まず地域に注目し、地域の特徴について学ぶことから始め徐々に全国や海外にスコープを広げていくこと、様々な学年間、校種間の交流が図られていること、大学や自治体、NGO等の協力・支援があること、子どもたちの自主的な活動を奨励していること等の特徴がみられました。

はぐくみたい力については、国立教育政策研究所が提案した6つの構成概念、7つの身に付けたい能力・態度を参考に、その学校の状況を踏まえた独自のものを考案している場合が多いようです。評価に際しては、子どもによる自己目標設定や自己評価を大切に、また、ポートフォリオの活用が有益であると考えられました。



各分科会報告

学校間交流

ファシリテーター：気仙沼市教育委員会 及川幸彦 副参事

「学校間交流」の分科会では、全国各地の6つの学校から米国、中国、韓国、台湾等の国際交流実践が4事例、国内交流実践が2事例報告されました。国際交流では、ESD日米教員交流プログラムや姉妹都市交流、ESDライスプロジェクト、アートマイルプロジェクト等をベースに、テレビ会議やEメール、そして教員相互訪問などを活用した交流活動についての発表がありました。一方、国内交流では、特別支援教育の観点からの異校種間交流や美術作品を通じた被災地との交流が報告されました。どの学校も、スケジュールの調整やプログラムのすり合わせ、翻訳など、交流までに難しい課題はあるものの、ESDをテーマとする国内外の学校間交流を通じて、相手意識やコミュニケーション能力、国際的な視野等が育まれるとともに、自分たちの地域を見つめ直し、愛着や誇りが醸成されたとの報告がありました。

国内のユネスコスクールが550校まで増加した現在、この「学校間交流」が、まさしくASPnetとして機能することが、日本のESDの質的な発展に寄与するものと思います。



校内体制

ファシリテーター：大牟田市立吉野小学校 新木勝憲 校長

学校全体で推進するための仕組み

実践報告をした6校は、学校全体で推進するため、次のような工夫を行っていました。

- ・教育課程に位置づける。 ・校内研究として取り組む。
- ・ESDカレンダーを作成して取り組む。 ・ESDの発表会を開催する。
- ・生徒会を中心として地域連携を推進する。

協議の内容

ESDカレンダーをいつ・誰がどうやって作成していくのかということが話題になりました。作成にあたっては、担任の特性や専門性を有効に活用するという考えで、各担任が独自に作成する方法、同学年で協議しながら学年ごとに作成する方法が紹介されました。

また、新たにESDに取り組みはじめた時期は、既存の「生活科や総合的な学習の時間の年間計画」を活用して実践をしながら、年間を通して作成していくことも考えられるのではないかと意見が多く出されました。

感想

全教職員がESDの価値を認識するとともに、教育課程に位置づけ、指導計画を充実させることで、全職員のベクトルをそろえ、学校としてのシステムを構築することが重要であると感じました。



全体会 分科会振り返り

全体会では、ファシリテーターが各分科会内容を報告したのち、会場との質疑応答を交えながら、ESDの今後の課題や方向性などについて意見を交換しました。「ESDカレンダーや発表会などのかたちがあるだけでは物足りない。まず教員自身が楽しんでカリキュラムをデザインしていくことが重要」「来年はESDの10年の最終年を迎えることもあり、ESD実践の内容、質に着目、見直す時期に来ている」などESD実践のさらなる段階に目を向けた意見が出されました。

コーディネーター：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
柴尾智子 事業部次長

分科会ファシリテーター：

- 地域との連携 大牟田市立白光中学校 川満 佳代子 校長
- はぐくみたい力 金沢大学 鈴木 克徳 環境保全センター長・教授
- 学校間交流 宮城県気仙沼市教育委員会 及川 幸彦 副参事
- 校内体制 大牟田市立吉野小学校 新木 勝憲 校長



コーディネーター 柴尾智子 事業部次長

地域との連携：川満佳代子 校長

「地域との連携」というテーマにおいては、もう十何年も前からそれぞれの学校で、開かれた学校づくり、地域に根ざした学校づくりとして、地域と連携した取り組みが行われてきている。6つの学校の発表も、こうした今までの取り組みに基づいて、ESDの視点を取り入れた学習活動についての報告であった。ただ、これまでと違うことは、今までなら地域とは「して下さってありがとう。見て下さってありがとう」という関係であったが、ユネスコスクールでの教育実践では、たとえ小学校の低学年からであろうと、地域の方と一緒に地域の課題を考えることになる。小学校1年生なりの、あるいは中学校3年生なりの解決策を考えて地域と一緒に行動をしていく。地域とのつながり、かかわり方を考え、行動する子どもたちを育てていくことである。



全体会 分科会振り返り

はぐくみたい力：鈴木克徳 環境保全センター長・教授

大牟田市の3校は、国立教育政策研究所が2012年3月に取りまとめた『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕』に示された「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」6項目と7つの「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）」を中心に据え、評価の仕方や身につけたい力の検討を進めてこられた。一方、建部中学校や2校の高等学校では、必ずしも国立教育政策研究所の示した概念や能力・態度に拘束されずに、こうしたことを踏まえながらも独自性のあるプロセスをもって発展させている。国立教育政策研究所の示したものは、育みたい力を考える上で一つの指標となっている。各学校は標準的なものを踏まえた上で、自分の学校の独自性というものを作り出していくことが非常に重要である。

学校間交流：及川幸彦 副参事

6つの発表を通して学校間交流における共通の要素が浮かび上がった。交流を困難にする要素としては次の4点が挙げられる。①コンテンツ：学校情報紹介、自己紹介だけでは行き詰まり、次のステップに進むことができない。一緒に活動する内容が必要である。②交流手段：Skypeやメール、直接訪問など、どれをどう組み合わせ活用していくのか。③サポート体制：学校だけでは難しい通訳などは外部機関に頼る必要がある。④準備：スケジュールの調整やプログラムの段取りを海外と擦り合わせるのは難しい。これらの課題をクリアして、交流の機会をチャンスとして捉え、積極的に使っていく意味は大きい。交流を通して得られるものは、①IT意識が高まる、②コミュニケーションを積極的に図るようになる、③国際的な視野が広がる、④外に出ることで地域を見つめ直し、誇りを持つようになることなどである。このように、交流を通して得られる尊い価値があるという認識を持たなければ、交流を始めても継続することはできない。課題は継続性、発展性である。



校内体制：新木勝憲 校長

ESDを長く推進していく上での大きな課題として、熱心な方が中心となって推進した場合、その先生が人事異動などで学校を離れてしまうと後が続かないとか、または、一人の先生に頼りきりで進めていては深まらないといったことがある。こうした点を踏まえて6校の発表を伺った。それぞれの学校で取り組んでいる内容はさまざまであるが、共通点としては、①校内研究とリンクして取り組んでいる、②職員会議での共通理解を重視している、③生徒会を活用しながら学校組織として進めているなど、それぞれ工夫をしながら組織づくりを進めているということであった。質疑応答では「ESDカレンダーはいつ、誰が、どのようにしてつくっているのか」という質問が挙った。これに対しては、4、5月に担任が作成してその年に実践している学校がある一方で、1年間実践した後に、それを見直して次年度につなげ、長期的なスパンで行っている学校もあった。それぞれの学校が、様々な立場や特性を活かした、様々な内容の取り組みを発表した。今後学校としてのシステムづくりをどう進めていくかという点で役立てていくことができると思う。



大牟田市立中友小学校

福岡県

 やまもとひろし
 発表者：山本博史 教諭

地域とつながる共生社会の構築

福祉教育を軸として「つながり」「関わり」を学ぶ

地域との連携



地域の少子高齢化という課題を受けて、中友小学校では福祉教育を中心とした取り組みが行われています。児童たちは実際に地域の高齢者や障害を持つ方と直接かわる体験を通じ、他者や社会との関係性を認識していきます。児童が自らの体験を通して課題を捉え、自発的な行動につなげていくことは、持続可能な社会構築の大きな一歩になるのです。

目的

●持続可能な社会を構築する「人」を、地域に根差した福祉教育で育成する

活動内容

相手のことを思いやること、つながりの大切さを意識すること、地域との関わりを理解すること、くらしと福祉について考えること、というように、学年ごとに段階的な取り組みを行っています。



お年寄り宅訪問▶

主な取り組み

- 1年生 友だちや身近な人たちとなかよくなろう
- 2年生 おもちゃまつりにしようたいしよう
- 3年生 心の目を育てよう、保育園の子どもとふれ合おう
- 4年生 二分の一成人式をしよう
- 5年生 子ども民生委員活動
- 6年生 高齢者福祉について考えよう



◀子ども民生委員活動



診療所訪問▶

活動のポイント

子ども民生委員活動とその広がり

5年生が総合的な学習の時間に展開している「子ども民生委員活動」。これは、地域の民生委員からの委託によりはじまるプログラムで、児童たちはその役割を学び、実際に高齢者や施設への訪問、案内状の配布、敬老会への参加等を行います。交流体験をすることで課題意識を持ち、プログラム終了後に自主的に施設を訪問する児童が出てくるなど、広がりも見せました。

学校情報

大牟田市立中友小学校

学校長 ■ 岩間 真弓

所在地 ■ 〒836-0025 福岡県大牟田市中友町1-20

TEL ■ 0944-53-6016 FAX ■ 0944-56-0497

E-MAIL ■ nakatomo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

大牟田市立玉川小学校

福岡県

 とりいあきら
 発表者：鳥井 聡 教諭

家庭・地域と連携した食育指導

心身ともに健康な児童の育成を目指して



玉川小学校は県の学校給食研究指定校として、主に食に関する指導や体験活動に取り組んでいます。ESDの観点からも、家庭や地域と連携した食育についての指導は、心身ともに健康な児童の育成につながる重要なテーマの一つです。実際の取り組みでは、農業体験と調理体験という二つの活動を、家庭・地域の協力を得ながら実施しています。

目的

- 心豊かで明るく、健康的に生活する子どもの育成
- 食育を通じて人や地域との関わりに気づき、つながりを尊重する態度を育む

活動内容

体験学習は、まず農業体験からはじまります。児童たちは、作物の種まき・苗植えから収穫まで一連の工程を体験します。そして自分たちで育て、収穫した食材を使った調理体験へ。食育の大切な場である家庭とも連携するため、保護者が参加するプログラムも多数あります。



もちつき大会

主な取り組み

家庭との連携

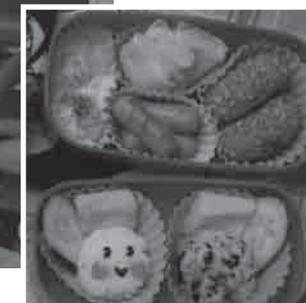
- ・食育講座
- ・親子学習会
- ・お弁当の日
- ・親子料理教室

地域との連携

- ・福祉もちつき大会
- ・一人暮らしのお年寄りへお餅配り



親子学習会



活動のポイント

食育に大きな役割を持つ家庭との連携

玉川小学校では、親子で参加する活動や保護者向けの講座等、「家庭」との連携をテーマとした取り組みをさまざま実践しています。その一つが「お弁当の日」。児童たちは「お礼を言う」「いっしょにつくる」「自分でつくる」等のコースから選択して家庭での弁当作りに取り組むとともに、家族への感謝の気持ちを育んでいます。



お年寄りへのおもち配り

学 校 情 報

大牟田市立玉川小学校

学校長 ■ 木村 光男

所在地 ■ 〒836-0893 福岡県大牟田市櫛野2710-1

TEL ■ 0944-53-6011 FAX ■ 0944-56-0885

E-MAIL ■ _____

大牟田市立延命中学校

福岡県

 さかもと みやこ
 発表者：坂本美也子 教頭

地域に学ぶ「学びの旅」

地域とのつながり・かかわりを目指した取り組み

地域との連携



延命中学校が目指しているのは、将来の持続可能な発展に向けた知識や価値観を打ち、それに基づいて行動できる生徒の育成です。そのため総合的な学習の時間をはじめ全ての活動において、福祉や人権・文化等に関する問題解決的な学習を行っています。地域の人との交流をベースとしたこれらの取り組みは、「学びの旅」と呼ばれ、3年間を通して積み上げるプログラムとなっています。

目的

●問題解決的な学習を通し、将来に渡る持続可能な発展に向けて行動できる生徒の育成

活動内容

3年間の中で、主に「文化」「人権・福祉」「キャリア教育」という3つの分野にわかれた学習プログラムを実施しています。これらは全て地域の人との交流をベースとしています。また生徒会活動として10年以上前から行われている「ダルニー募金」や「プルタブ回収運動」等も引き継がれています。



スケジュール

1年生 文化：身近な文化の伝承
人権・福祉：認知症学習／校区探索活動

2年生 文化：日本の伝統文化に学ぶ
キャリア教育：職業人に学ぶ

3年生 人権・福祉：幼稚園・保育所訪問
キャリア教育：職場体験学習



活動のポイント

誰にとっても住みよい大牟田にするための4ヶ条

1. 子どもや高齢者、障害のある方など、様々な人の立場での見方、考え方ができるように心がける。
2. 様々な人の目線で、まずは校区内の危険箇所や不便なところを見つける。
3. 改善に向けて、自分にできること、できそうなことがあればやってみる。もし、自分ひとりではどうしようもない場合は、周りの大人に相談してみる。
4. 自分ひとりでは改善できない道路工事など、大牟田市などに取り組んでいただきたいことについては、市役所に頼むなどの方法をとる。

学 校 情 報

大牟田市立延命中学校

学校長 ■ 井上 茂樹

所在地 ■ 〒836-0871 福岡県大牟田市昭和町240

TEL ■ 0944-53-6034 FAX ■ 0944-57-7098

E-MAIL ■ _____

玄海町立有徳小学校

佐賀県

 ぎょうとくひでとし
 発表者：行徳英敏 教諭

玄海町の将来を考える

地域との連携



自ら問題を解決する「地域エンパワーメント」という視点

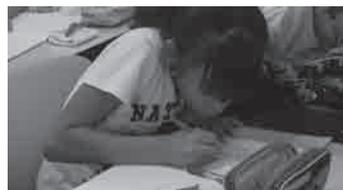
玄海町は自然豊かな環境ですが、少子・高齢化や後継者不足問題等、地域が抱える課題は多くあります。そこで、地域の問題を住民自らが解決していこうとする力をつけることを「地域エンパワーメント」と呼び、地域での学習を取り入れる問題解決型の教育活動を実施しています。児童たちは、これらさまざまな活動を通して「自分たちにできることは何か」を考えていきます。

目的

- 地域に対する誇りや希望を持たせ、将来を担う子どもたちを育てる
- 保護者、地域と連携して活動し、地域の教育力を醸成していく

活動内容

玄海町教育支援センターの支援や、保護者・地域住民の協力のもと、「玄海町の将来を考える学習」を各学年で実施。地元の産業、特産物やエネルギー問題等を中心とし、地域についての興味・関心を高めるとともに、現在の課題を知りこの解決方法を探ります。



葉草園見学

各学年のテーマ

- 3年生 もっと知ろうよ玄海町の特産物
- 4年生 「玄海町よかこマップ」を作ろう
- 5年生 “食の安全”について学ぼう～ふるさと玄海町から～
- 6年生 玄海町の未来を創ろう



味噌づくり

活動のポイント 「地域エンパワーメント」が動き出す

子どもたちの地域学習は、将来を担う人材を育てると同時に、地域そのものの教育力を高めるための取り組みでもあります。様々な学習活動を通して学校・家庭・地域社会が一丸となって協働する意識が高まり、持続発展的な未来に向けた「地域エンパワーメント」が少しずつ動き出しています。



▲キャトルステーション見学

学校情報

玄海町立有徳小学校

学校長 原口 弘之

所在地 〒847-1421 佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦106-1

TEL 0955-52-2711 FAX 0955-52-2712

E-MAIL edq13205@saga-ed.jp

多摩市立東愛宕中学校

東京都

 発表者：^{とみた ひろし}富田 広 校長

開かれた学校を目指して

地域とともに、豊かな心を持つ生徒を育てる



「学校教育は、学校内だけで完結するものではない」。この言葉を合言葉に、東愛宕中学校では地域に対し「開かれた学校」づくりを目指しています。校内において、持続可能な社会づくりに関わる課題として挙げられたのは、思いやりや優しさ、人間関係の希薄化でした。そのため、豊かな人間性を育てるための教育活動として、外に目を向けたさまざまな取り組みを行っているのです。

目的

- 人と人、人と社会、人と自然のつながりと、その重要性を認識する
- 豊かな人間性を身に付け、社会と関わりながら生きていく力を育てる

活動内容

「豊かな人間性を育てる持続発展教育（ESD）の実践」として、5つの実践を行っています。地域住民との協働の他、ネット通信を通して海外の学校と連携した壁画作成や、気仙沼のユネスコスクールとの交流等、その活動は多岐に渡っています。



アゼルバイジャンとの交流

5つの実践

- ボランティア活動** 思いやりの心と行動力の育成
- 職場体験** 給金以外の価値観を求めて、企業の社会的責任、社会貢献について考える
- グリーンカーテン** 自然環境、地域住民との関わり
- 交流活動** 海外、他地域の学校との連携・交流
- 校庭の芝生化とその活用** 地域の老人会や幼稚園との関わり



◀芝生を通して地域の人々とつながる

どんど焼き準備に参加▼



活動のポイント

教員の意識向上を目指して

生徒たちに対する活動だけでなく、教員側の意識向上を目指した取り組みも行っています。ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が実施する国際教育交流事業などに参加し、アメリカや韓国のESD教育の現場へ教員を派遣したり、各研修会・研究発表会等への積極的な参加を通して、ESDに関する新たな事例や情報を取り入れています。



▶グリーンカーテンの実践



ゴーヤの収穫▶

学 校 情 報

多摩市立東愛宕中学校

- 学校長 ■ 富田 広
- 所在地 ■ 〒206-0041 東京都多摩市愛宕 1-52
- TEL ■ 042-374-9781 FAX ■ 042-337-7648
- E-MAIL ■ higashiatagochu@educet01.plala.or.jp

羅臼町立羅臼小学校

北海道

 みずぐちたくま
 発表者：水口拓真 教諭

ふるさとにヒグマがいる

ヒグマを支える森・川・海そして町

地域との連携



世界自然遺産「知床」の町、羅臼町は世界でも有数のヒグマ高密度地帯です。地元地域では、そのヒグマとの共存が大きな課題となっています。地域の未来を担う子どもたちは、この「ヒグマ」問題を通じて地元地域のリアルな姿を学ぶとともに、自然の多面的な姿、地域の抱える課題について理解し、「ふるさと」への愛情と興味関心を高めています。

目的

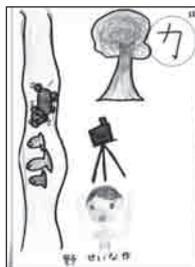
- ヒグマ問題とその解決に向けた取り組みを知ると同時にヒグマが生息することの価値を学ぶ
- 自分の暮らす地域のリアルな現実を知ること、ふるさとへの誇りや愛情を育む

活動内容

学年ごとに、さまざまな教材を使用して学びます。複数のアプローチで「ヒグマ問題」について考えることで、小学生だからこその発想から、問題解決のための多様な視点が生まれました。

主な取り組み

- ・絵本「知床の兄弟ぐま ヌブとカナ」の読み聞かせ
- ・骨格標本、毛皮等を活用した知床財団によるヒグマ出前授業
- ・羅臼ヒグマ新聞やミニポスターづくり
- ・「ヒグマ問題」解決方法を考える討論会
- ・「ヒグマかるた」を通じた地域への啓蒙活動 他



カメラもち
ひぐまにせっ
きん



ひぐまはね
ゴミをたべると
かわります



ちよっとまで
えさやりきんし
かんこうきやく



◀◀知床財団の出前授業



活動のポイント

地域のリアルな姿を知るための4つの視点

「リアルな地域の姿」を見事に捉えてもらうため、繰り返し地域に行く、リアルな現実に対面する、働く人々の姿や労働を知る、自然の多面的な姿に出会う、という4つの観点からカリキュラムを構築しています。この4つの視点をバランスよく満たすことで、「地域を見る目」を育てていきます。

学校情報

羅臼町立羅臼小学校

学校長 ■ 横澤 英三

所在地 ■ 〒086-1833 北海道目梨郡羅臼町本町41

TEL ■ 0153-87-2006 FAX ■ 0153-87-4504

E-MAIL ■ rashou@cocoa.ocn.ne.jp

大牟田市立大牟田小学校

福岡県

 つつみ
 発表者：堤さゆり 教諭

地域へのアプローチとウェビング

かかわり・つながり・広げる学びを目指して



大牟田のよさを知り、郷土を愛する気持ちを育てていくため、総合的な学習を中心に、教科・領域を横断的に関連付けた指導を実施。自らが地域へ積極的にアプローチしながら課題を解決しようとする姿勢を持ち、ひと・もの・ことのかかわりやつながりを通して行動を変革する学びを目指しています。その過程で課題や関心をさらに広げていくウェビングも重要視しています。

目的

- 地域の将来に展望を持ち、自ら働きかける力を育てる
- 自他それぞれのよさに気づき、共によりよく生きる子どもたちを育てる

活動内容

大牟田は古くから炭鉱の町として栄えてきました。児童たちは炭鉱にまつわる史跡や公園の見学を行い、それぞれの興味に即して自ら調査。その課題について調べていく中でさらなる疑問や課題を持ち、自分の興味・関心の対象を広げていきました。



石炭の大きさに驚く子どもたち

学年ごとの取り組み

3年生 社会「私たちの大牟田」

4年生 総合的な学習の時間「延命の生き物」

5年生 総合的な学習の時間「大牟田の炭鉱」



「ユネスコスクール子どもサミット」で発表する子どもたち



石炭を掘り出すための機械を見る子どもたち

活動のポイント

生まれ育った町の歴史を知る

大牟田の炭鉱について、子どもたちの興味・関心は施設の見学のみにとどまらず、石炭の使われ方、炭鉱に携わった人、閉山までの歴史、炭鉱の食文化や行事等にまで広がりました。課題にアプローチしていく過程で、子どもたちはさまざまなものにつながりに気づき、炭鉱から国際理解、エネルギー、環境、福祉、経済等の世界的問題への視点の広がりも見られました。

学校情報

大牟田市立大牟田小学校

学校長 ■ 石橋 邦男

所在地 ■ 〒836-0851 福岡県大牟田市笹林町1-1-3

TEL ■ 0944-53-6014 FAX ■ 0944-59-0864

E-MAIL ■ _____

大牟田市立笹原小学校

福岡県

 はらだよしひろ
 発表者：原田賢浩 教諭

野間川環境調査隊

地域の自然環境を知り、守る



笹原小学校では、自然愛護や資源の有限性・再利用、環境汚染問題・環境保全等、環境学習を中心としたESD活動に取り組んでいます。自然豊かな地域の環境への理解を深め、地域・家庭とのより強いつながりを築いていくため、学びの系統性を重視し、育てたい能力・態度を明確にしたうえで教育計画・指導計画を作成・実行しています。

目的

- 人、もの、こと、社会、自然等と自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にすることを育む

活動内容

各学年がそれぞれ設定されたテーマについて、学習活動を行っています。その中の一つ、5年生で行う野間川環境調査では、地域を流れる野間川の水質調査を実施。この調査を通して川を汚さないためにはどうしたらいいのか、というような新たな課題を持ち、児童たちは多面的・総合的に考える力を身に付けます。

各学年の取り組み

- 1年生 笹原小学校の宝をさがそう
- 2年生 生き物と友だちになろう
- 3年生 校区にとんでくる鳥を調べよう
- 4年生 リサイクルの仕組みを調べよう
- 5年生 野間川環境調査隊
- 6年生 世界の環境について調べよう



活動のポイント

学習の成果を地域へと発信

野間川環境調査の活動の一環として、生徒たちは川を汚さないために自分たちでできることを考え、実践しています。その一つが、環境ポスターの作成です。児童たちがつくったポスターは、公民館や地域のお店に掲示され、広く環境を保全していくことの重要性を発信しています。

学校情報

大牟田市立笹原小学校

学校長 ■ 山本 和典

所在地 ■ 〒836-0884 福岡県大牟田市笹原町3-116

TEL ■ 0944-53-6009 FAX ■ 0944-56-0895

E-MAIL ■ sasahara-ed@st.city.omuta.fukuoka.jp

大牟田市立白光中学校

福岡県

 すがはらゆきのり
 発表者：菅原幸典 主幹教諭

HAKKOクッキー社の創立

まちやひとを元気にするアプローチ



白光中学校では、金融教育の一環として「大牟田の新しい特産物をつくろう」というテーマのもと、学習活動を行いました。地元の機関や事業者と連携しオリジナルのクッキーづくりに取り組む過程で、人と社会とのかかわり・つながりを理解し、地域社会に貢献することの意義を学びました。そして先輩たちの取り組みを継続させたいと考えた後輩たちによって「HAKKOクッキー社」が創立されました。

目的

- 将来と社会の変革のために求められる価値観、行動、及びライフスタイルを学び、持続可能な社会づくりに参加できる生徒を育成する

活動内容

大牟田市の特産品をつくるため、まずは大牟田の観光課題等を学びました。そこから生徒たち自身が商品開発を行い、地元の若い職人の方へ依頼してオリジナルクッキーが完成。修学旅行先（大阪）での販売当日はあっという間に完売しました。この一連の活動を通して、生徒たちは人や社会とのつながりを理解し、自分たちでも地域に貢献できることを知りました。



HAKKOクッキー社の取り組み

組織：社長、販売促進課、商品開発課

活動：市場調査

大牟田市商工観光課からのレクチャー

商品開発

地元の機関や事業者との交渉

修学旅行先（大阪）での販売



活動のポイント

まちやひとを元気にするアプローチ

HAKKOクッキー社のクッキーは福祉施設のおやつとしても採用され、地域の方から「クッキーのおいしさと中学生の優しさに元気もらった」、「中学生パワーが大牟田のまちを活気づける」と励ましの言葉をもらいました。これらの活動を通して、生徒たちは自分の発言や行動に責任を持ち、ものごとに主体的に参加しようとする態度が身につきました。



学 校 情 報

大牟田市立白光中学校

学校長 ■ 川満 佳代子

所在地 ■ 〒836-0005 福岡県大牟田市椿黒町 32

TEL ■ 0944-53-6036 FAX ■ 0944-57-7147

E-MAIL ■ _____

岡山市立建部中学校

岡山県

 のとのりやす
 発表者：能登律安 校長

「たけべ学習」を通して

総合的な学習にESDの視点を加えて



従来から、生徒会による国際貢献活動や、異学年グループによる環境学習・国際理解学習等の特色ある教育活動を進めていた建部中学校。ユネスコスクール加盟を機に総合的な学習の時間をESDの視点で見直し、「たけべ学習」として、異学年集団の6コースによる総合学習、そしてキャリア教育を中心とした総合学習という2つの分野で教育活動を展開しています。

目的

- ESDで重視されている能力・態度をもとに、さまざまな力を身に付ける

活動内容

「たけべ学習」の一つである「異学年総合」では、生徒の興味・関心によって選択ができるよう、6つのコースが設定されています。国際交流コース、韓国語コース、世界の音楽コース、日本の音楽コース、自然環境コース、造形コース、という特色ある学習活動を行うことができます。

日本の音楽コース発表演奏▶



異学年総合の展開スケジュール

- 4月 オリエンテーション
- 5月 コース分けと計画づくり
- 6・7月 調べ学習、作品づくり、演奏練習
- 8月 自主活動
- 9月 発表準備
- 10月 たけべ学習発表会・自己評価



◀自然環境コースの活動



アルミ缶回収活動▶

活動のポイント

学習の成果を発表会で共有

学習活動の終盤には、「たけべ学習発表会」が開催され、保護者・地域の人々、近隣の学校関係者に向けて生徒たちが成果発表を行っています。発表だけにとどまらず、生徒同士の成果共有や、地域の人々との交流・新たな学びの場にもなっており、活動の振り返りを行うよい機会となっています。

学校情報

岡山市立建部中学校

学校長 ■ 能登 律安

所在地 ■ 〒709-3142 岡山県岡山市北区建部町建部上734

TEL ■ 0867-22-0517 FAX ■ 0867-22-2407

E-MAIL ■ takebec@city-okayama.ed.jp

大牟田市立大正小学校

福岡県

 やまさきつよし
 発表者：山崎強志 教諭

学校間交流



おおむたから世界へ

ESD 活動を広げる国内外の学校間交流

市全体でESDに取り組んでいる大牟田市では、市内の学校が参加する「ユネスコスクール子どもサミット」が開催されています。大正小学校もサミットに参加し、学校間の情報共有を行っています。また、2011年はESD日米教員プログラムにも参加。これからの学校間の取り組みを話し合う機会となり、新たな活動計画も策定されました。

目的

- 地域の特色についての発表を、伝える相手を意識してできるようになってきている
- ESDの取り組みについて、学校間で広がりが出てきている

活動内容

ESD日米教員交流プログラムに参加して5月に米国カンザス州を訪問。現地の学校で環境教育の現場を体験。帰国後は、6月に訪日した米国教員と共に東京で行われた合同会議に参加して、日本の4校と米国の3校の教員でグループをつくり、相互に交流を進めるプランを話し合いました。



米国で行われた交流会

日米交流プラン

- 9~10月 各学校の地域や学校紹介
- 11~12月 学校紹介を見て、相手の学校への子どもたちの質問
- 1~2月 アメリカの学校へスクールフラッグを送る
- 3月 各学校のスクールフラッグを合同作品として作成



ひまわりプロジェクト

活動のポイント

地域の取り組み「ひまわりプロジェクト」を世界へ

学校と地域が一体となって行っている「ひまわりプロジェクト」。大正小学校では、この取り組みを今後、日米間学校交流の場で紹介することを計画しています。「地球にやさしい町づくり」という環境活動を視点としたESDについて、国内外の学校と共同の取り組みを行っていくことが、将来的な目標の一つです。

学 校 情 報

大牟田市立大正小学校

学校長 ■ 松尾 晋

所在地 ■ 〒836-0047 福岡県大牟田市大正町5-5-9

TEL ■ 0944-53-6015 FAX ■ 0944-59-0863

E-MAIL ■ _____

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

大牟田市立明治小学校

福岡県

 みやしたてつお
 発表者：宮下 哲夫 教頭

友好都市・中国大同市との交流

環境をテーマに学びあう

学校間交流



大牟田市は炭鉱とともに発展してきた町ですが、同じ炭都という共通点から、1981年に中国大同市と友好都市関係を結んでいます。長年にわたって文化、スポーツ、医療等幅広い分野での交流を行っており、中でも環境分野に関しては、JICA草の根技術協力事業の実施をはじめ、教員の相互派遣や子どもたちによる学習成果の相互発信など、積極的な交流活動が行われています。

目的

- エネルギー環境教育に加え、国内の課題と国際的な課題を結びつけ、その解決を考察する
- 持続可能な社会を構築するために必要な価値観、行動、ライフスタイルを身に付ける

活動内容

5年生は、総合的な学習の時間に「川」の環境を調べる活動を行います。この調査内容を発表するにあたり、大同市の子どもたちがまとめたアクションプランと対比したりしながら学習を進めました。明治小学校からも、学習成果としてまとめた掲示物やメッセージを入れたビデオを大同市へ送付しています。



5年生取り組み

僕たち、わたしたち環境探検隊

- ・水質等の調査
- ・実験
- ・中国大同市の視察
- ・環境保全課の評価
- ・グループごとの発表



活動のポイント

これまでの環境教育に、国際理解の観点を付加

明治小学校では、これまで実施されてきたエネルギー・環境教育の取り組みについて、国際理解の観点から、大同市の河川について学ぶという活動内容を新たに追加しました。両市の児童たちは「環境」という共通の課題意識を持ち、相互に発信・交流を行うことで視野を大きく広げ、持続的な社会を担うための力を少しずつ身に付けています。

学 校 情 報

大牟田市立明治小学校

学校長 ■ 馬場 直子

所在地 ■ 〒836-0012 福岡県大牟田市明治町2-21-1

TEL ■ 0944-53-6017 FAX ■ 0944-59-0859

E-MAIL ■ meiji-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

大牟田市立大牟田特別支援学校

福岡県

 しまづよしひろ
 発表者：島津義浩 教諭

地域との交流による共同学習

つながりを大切にしようとする態度を育む

学校間交流



大牟田特別支援学校では、同じ地域にある他の学校との交流や共同学習を通して、子どもたちに身に付けさせたい資質や能力を向上させるための取り組みを行っています。さまざまなふれあいを体験することで、児童生徒の自分の気持ちを伝えようとする態度や、互いを知り、つながりを大切にしようとする態度を育みます。

目的

- 人の気持ちや考え方を大切にしたり、自分の気持ちや考えを伝えたりする力
- 人・もの・こと・社会・自然などと自分のつながりを大切にしようとする態度

活動内容

七夕やクリスマス、運動会といった行事で交流活動を実施するなど、積極的に共同学習を行っています。同学年だけではなく異学年とふれあう機会も設けており、相手校である天道小学校では1年生から6年生までが年齢に応じたかわり方を学んでいます。



クリスマス交流

スケジュール

学校間交流

- ・天道小学校との交流
- ・米生中学校との交流
- ・天道小学校、米生中学校との合同七夕交流会
- ・有明工業高等専門学校との交流

市内特別支援学級との交流

- ・合同運動会

居住地校交流

- ・同じ地域、同学年との交流



高専交流

活動のポイント

交流メンバーを固定することで得られる成果

継続した交流活動を通し成果を挙げることを目的として、米生中学校との交流では、年3回の交流に参加するメンバーを固定しています。繰り返しの活動により、年1回の行事や単発の特別授業ではなかなか十分に行えないことも、自然と身に付けることができるようになります。

学 校 情 報

大牟田市立大牟田特別支援学校

学校長 ■ 本田 敏彦

所在地 ■ 〒836-0896 福岡県大牟田市天道町24

TEL ■ 0944-56-9671 FAX ■ 0944-52-0111

E-MAIL ■ sien-s@st.city.omuta.fukuoka.jp

金沢市立西小学校

石川県

 発表者：^{すぎやま あさこ}杉山麻子 教諭

国際交流を通してつながる活動



人・社会・自然・世界とのかかわり・つながりを学ぶ

金沢市では、未来を担う児童が、地域の人・自然・社会とのかかわりやつながりを学んでいくために、2009年から「金沢絆教育」を推進しています。それを受け、西小学校では地域への愛着を持ち、そのよさを活用できるカリキュラムの具体化を進めています。中でも、国際交流・国際理解を深めるための教育活動は、子どもたちが自分の暮らす国や地域への理解を深めるきっかけとなっています。

目的

- 人・社会・自然・世界との関わり・つながりを尊重できる児童の育成
- 生きる力を身につけ、可能性を追求する児童の育成

活動内容

アートマイルプロジェクトに参加して、台湾の嘉義市文雅小学校と交流しました。また、台湾出身の保護者の方の協力を得て、台湾文化の経験を親子活動として行いました。地元金沢の食文化や自然環境を学ぶ授業は、市の姉妹都市についての食・自然を調べて共通点や違いについて学ぶ活動へと発展させています。

全校での歓迎会の様子



スケジュール ※台湾 文雅小学校との交流

- 2011年9月～
 - ・アートマイルプロジェクトの実施
 - ・台湾ってどんな国？（調べ活動）
 - ・台湾の文化を知る（体験活動）
- 2012年3月
 - ・文雅小学校の方々が来日・交流活動を実施
- 2012年5月～
 - ・クラブ活動で交流（メールのやりとり、歓迎会の企画・準備）
- 2012年9月
 - ・文雅小学校の方々が来日・交流活動を実施
- 2012年12月
 - ・互いの国の民話の読み聞かせ（TV会議）



◀共同制作した壁画と一緒に



▶台湾の小学生が本校1年生にキーホルダー作りを教えてくれた

活動のポイント

当初の計画を超えた交流への発展

アートマイルプロジェクトでのつながりをきっかけに、文雅小学校との交流が一度限りではなくその後も継続したものへと発展しました。限定した学年だけでなく、クラブ活動を活用して全校での交流を続け、二年続けて台湾の児童の来日も実現しました。当初の計画を超えたつながりが生まれたことで、継続的な交流ができるようになってきました。



5年生の教室で交流



5年生と英語授業を一緒に受ける

学 校 情 報

金沢市立西小学校

学校長 ■ 新保 修

所在地 ■ 〒920-0027 石川県金沢市駅西新町3-15-1

TEL ■ 076-263-5338 FAX ■ 076-263-5340

E-MAIL ■ nishi-e@kanazawa-city.ed.jp

大和町立鶴巣小学校

宮城県

 发布者：^{いとうこういち}伊藤公一 校長

お米でつながるアジアの交流

ESD Rice Projectに参加して

学校間交流



鶴巣小学校では、従来から地元の宮城教育大学と連携して「米作り・畑作り・EM菌培養・水生生物調査」等の環境教育に取り組んできました。これらの環境教育をより深化させたものにするためESDに関連付けた教育計画を作成。中でも10年前から行っている米作り活動は、今年度、ESD Rice Projectのパイロットプロジェクトへの参加につながりました。

目的

●教育計画をESDに関連付け「環境教育」をより深化させる

活動内容

長年行われている米作り活動では、全児童が田植えから脱穀までの作業を協力しながら体験します。この活動は、地元JAと連携したバケツ稲作りや、JICAを通じた収穫祭での国際交流餅つき、ESD Rice Projectへの参加による韓国との国際交流に発展しています。



環境教育活動

川の生態調査（絶滅危惧種の保護活動）
EM菌培養
畑作り（薩摩芋・胡瓜・馬鈴薯）
ESD Rice Projectパイロットプロジェクトへの参加



活動のポイント

アジアのユネスコスクールとお米をテーマに学ぶESD

お米をテーマとする学びを通じて、アジアのユネスコスクールが国を超えたネットワークを作っていくことをめざすESD Rice Project。鶴巣小学校はこのプロジェクトに参加し、主に5年生の児童が韓国のオルサン小学校との交流を実施しています。両校は共通で「バケツ稲作り」を実践しており、その取り組みについてスカイプを利用し発表しました。韓国の食文化について学ぶ機会となり、子どもたちにとって有意義な活動となりました。



学 校 情 報

大和町立鶴巣小学校

学校長 ■ 伊藤 公一

所在地 ■ 〒981-3417 宮城県黒川郡大和町鶴巣北目大崎字岸172

TEL ■ 022-343-2251 FAX ■ 022-343-7024

E-MAIL ■ chief@tsurusu-e.myswan.ne.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

大牟田市立吉野小学校

福岡県

 まつむらさちえ
 発表者：松村幸枝 教諭

知ろう！守ろう！吉野の自然環境

「ストーリー」に基づく指導計画



吉野小学校ではこれまで実施してきた活動について、成果と課題を明確にしたうえで新たな校内体制作りに取り組みました。課題の一つとして挙げられた「目指す児童像の明確化」をはじめとし、ESDカレンダーの見直しや学習内容を発信する機会の設定等、学校として取り組むべき「ストーリー」を意識して活動を実践しています。

目的

- 育みたい力とめざす児童像を明確にし、その学年化と重点化を図る
- 学校としての指導計画「ストーリー作り」を重視する

活動内容

各学年の指導計画（ESDカレンダー）を作成する際、目指す児童像をしっかりと持つと同時に、各教科・領域との横断的な関連付けを意識しました。子どもたちにどのような気づきや考えを持たせていくのかというストーリーを描くことに重点を置きました。

「吉野小ユネスコフェスティバル」で、環境を守るための取り組みについて発表する6年生



各学年の取り組み

- 1年生 自然とふれ合おう～町の四季を感じる～
- 2年生 レッツゴー！町たんけん～四季の変化を感じる～
- 3年生 吉野の自然 しらべ隊～身近な生き物を調べる～
- 4年生 つくろう 吉野のビオトープ～なかよし池をビオトープ化する～
- 5年生 自然を守ろう！吉野環境調査隊～身近な川の環境を守る～
- 6年生 育てよう環境！吉野の未来のために～ごみやエネルギー対策を考える～



▲地域を流れる川の環境を守るため、川の水質や透明度、生息する生き物などを調べる5年生



▲ネイチャーガイドの方々と地域に生息する生き物を調べる3年生



▶学校にある「なかよし池」をビオトープにするため、池にすむ生き物を調べる4年生

活動のポイント

更なる指導計画の充実のために

ESDカレンダーの見直しによって、年間を見通した横断的な活動が可能になりました。また「育みたい力」について、態度や能力の8つの観点から言語化して指導に取り組んだことで、子どもたちにも学習意欲やコミュニケーション力の向上、具体的な行動への表れが見られました。今後の課題として挙げられているのは、目指す児童像に対する評価の規準、時間配分と授業内容の検討等です。

学校情報

大牟田市立吉野小学校

学校長 ■ 新木 勝憲

所在地 ■ 〒837-0912 福岡県大牟田市大字白銀967-17

TEL ■ 0944-58-1037 FAX ■ 0944-58-7990

E-MAIL ■ _____

大牟田市立駿馬北小学校

福岡県

 とつかとしや
 発表者：戸塚俊也 教諭

かかわろう、つながろう、きらめく駿馬

郷土愛と思いやりのある心を育む地域学習



校区内の「宮原坑跡」をはじめ、生活科・総合的な学習に活用できる環境に恵まれた地域、大牟田市。その地域環境を踏まえ駿馬北小学校では、地域の「ひと、もの、こと」を通じた体験的な活動を通し、「郷土愛と思いやりの心あふれる子どもの育成」をねらいとしてさまざまな取り組みを行っています。その実践のための校内体制も、活動を通して確立されつつあります。

目的

- 地域の「ひと、もの、こと」について興味・関心を持ち、体験的に理解を深めることで、「かかわり」「つながり」を通して地域を尊重し、思いやりの心をもつことのできる子どもを育てる

活動内容

道徳、総合的な学習の時間等を利用した活動については、各教科との関連的な指導・横断的な学習を意識しています。より多面的・構造的な見方・考え方を養うため、子どもの思考の流れに沿った学習活動になるよう考慮しています。



活動内容

地域にある近代化遺産(世界遺産候補)の活用

石炭産業に関わる地元の遺産を活用した社会科学習

各教科等との関連的指導

ESD カレンダーの作成

市や地域との連携

お祭り、清掃活動等、各種行事への参加



活動のポイント

恵まれた環境を活用し、主体性を育てる

駿馬北小学校の校区内には、九州・山口の近代化産業遺産群（世界遺産候補地）である「宮原坑跡」や「旧三池炭鉱専用鉄道敷」が存在します。またその他にも国指定の古墳群や、運動施設、公園、河川等の自然環境も含め、総合的な学習の時間に利用できる環境が揃っており、これらの活用によって、児童たちが主体的に地域に興味を持ち、関わっていく態度を育てています。



学 校 情 報

大牟田市立駿馬北小学校

学校長 ■ 前田 一実

所在地 ■ 〒836-0084 福岡県大牟田市馬場町17

TEL ■ 0944-53-6008 FAX ■ 0944-56-0901

E-MAIL ■ _____

大牟田市立上官小学校

福岡県

 うらためいこ
 発表者：浦田明子 教諭

郷土愛・愛校心をつなぐESD



100年の校史を学び、全校をあげて地域へ発信

創立100周年を迎える上官小学校では、その長い歴史を学ぶ取り組みを全校で実施しました。全児童が協働的な学びを体験することで、関心を喚起し理解を深化させ、参加する態度や問題解決能力を育てるとともに、具体的な行動へとつなげることがなされています。校内全体で組織的に取り組む学習スタイルにより、子どもたちのコミュニケーション能力も養われました。

目的

- 創立100周年を機とした「校史学び」を通して協働的な学びを実践し、郷土愛・愛校心をつなぐESDを展開

活動内容

総合的な学習の時間に、文献調査やインタビュー、現地見学を実施。学校や校区の歴史や変遷だけでなく、受け継がれてきた伝統や、郷土愛・愛校心等の価値についても学びました。これらの活動の発信の場として記念式典が位置づけられ、地域への発信も行われました。



学習のプロセス

継承:見つめて

- ・文献の調査
- ・インタビュー
- ・現地調査

創造:問うて

- ・伝統・郷土愛等の価値あるものを学ぶ

伝達:伝える

- ・記念式典の出し物
- ・年表・記念誌



活動のポイント

全校児童による記念式典での発信

100周年記念式典では、学年ごとの歌や劇、インタビューや語り等を交えた出し物というかたちで、学んだことの地域に対する発表が行われました。その他にも、校内に掲示する学校年表の作成や、100周年記念誌への掲載等も発信活動の一環として行われています。

学 校 情 報

大牟田市立上官小学校

学校長 ■ 吉原 守生

所在地 ■ 〒836-0856 福岡県大牟田市宮坂町6-3

TEL ■ 0944-53-6012 FAX ■ 0944-56-0865

E-MAIL ■ jyoukan-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

岡崎市立男川小学校

愛知県

 あんどう なおや
 発表者：安藤直哉 校長

子どもが響きあう学校づくり



ESDカレンダーを核として全教科領域で取り組むESD

研究テーマを「子どもが響きあう学校づくりー真の学びの実現とESDの推進を通してー」と設定した男川小学校では、ESDを確実に推進するために全教師でESDカレンダーの作成に取り組みました。全教科・領域・行事の内容を吟味したうえで、5つの視点から実施内容を分類。そしてそれぞれにESDと関連付けた内容を盛り込み、授業を実践に移しています。

目的

- 全教職員のESDに対する共通理解のもとに、活動を実践する
- 学校改革・授業改革を実現し、子どもの生きる力を育てる

活動内容

「英語」「多文化理解」「環境」「人権と社会」「情報と経済」の5つの視点から、それぞれ教科・領域・行事を関連付けてESDカレンダーを作成しました。

未来を生きる力を育む5つの学習

- ESDの種をまく授業** 持続発展可能な知識や見方・考え方の芽生えを促す
- ESD重点学習** 持続発展可能な知識や見方・考え方を意識して育てる
- 環境学習** 地球の自然環境や保全についての知識や考え方を系統的に学ぶ
- 英語活動** コミュニケーションツールとしての英語を聞く耳と基本的な技能を学ぶ
- 岡崎の心を育成する学習** 異文化理解の基礎となる「岡崎の心」を醸成する



活動のポイント

思考力・判断力・表現力の育成のために

活動内容、ESDカレンダーの作成にあたって重視されたのは、特に思考力・判断力・表現力の3点についての育成でした。複雑化する将来の社会の中では、多面的なものの考え方をしなければなりません。それらの基盤となる広い視野や価値観を身に付けることを念頭に、授業や活動内容を検討しています。

学 校 情 報

岡崎市立男川小学校

学校長 ■ 安藤 直哉

所在地 ■ 〒444-0007 愛知県岡崎市大平町字中道17番地

TEL ■ 0564-22-1159 FAX ■ 0564-22-1285

E-MAIL ■ otogawa@st.oklab.ed.jp

奈良市立月ヶ瀬中学校

奈良県

 しんどうつかさ
 発表者：進藤 宰 校長

持続可能な発展のための「持続可能な」取り組み 長年実践してきた活動を、ESDの視点から再構築



伝統的に、地域をあげて学校へ協力する姿勢が強い、という活動基盤を持つ月ヶ瀬中学校。ユネスコスクール加盟以前より、長年に渡って地域と連携しながらさまざまな活動に取り組んできました。それら一つひとつ別々に行ってきた活動内容をESDの視点から捉え直し、学校の活動における基本的な柱として再構築。更なる持続的な取り組みへと発展させています。

目的

●地域に誇りを持ち、その未来への持続発展に貢献する人材の育成

活動内容

17年間の活動実績を誇るアルミ缶回収運動をはじめ、月ヶ瀬中学校の取り組みは息の長いものがほとんど。地域清掃や、地元産業に関連する「闘茶会」「梅採り」「奈良晒」等、地域との深い関わり合いの中で実施されています。



主な取り組み

福祉 友愛訪問／親子福祉体験

地域合同 体育祭・文化祭／月ヶ瀬海浜マラソン

国際理解 韓国慶州生徒訪問／国際理解教室

産業・伝統・文化 梅採り・梅漬け／闘茶会／紅茶染め／奈良晒／ふるさとウォーク

地域貢献 アルミ缶回収／地域清掃／花いっぱい運動



活動のポイント

「寄贈福祉機器 100 台」、継続した活動の成果

長年に渡り引き継がれてきたアルミ缶回収では、その活動で得た資金によって、地元の施設へ福祉機器（車いす等）の寄贈を行ってきました。その数、昨年までの16年間で97台。いよいよ今年で100台を超えることになります。月ヶ瀬中学校の取り組み、継続的な活動の意義を感じさせる成果のひとつです。

学校情報

奈良市立月ヶ瀬中学校

学校長 進藤 宰

所在地 〒630-2302 奈良県奈良市月ヶ瀬尾山2551

TEL 0743-92-0020 FAX 0743-92-0895

E-MAIL tsukigase-j@naracity.ed.jp

福岡県立武蔵台高等学校

福岡県

 発表者： みぞた やすひこ 溝田 康彦 主幹教諭

地域歴史文化理解と国際理解

創立30周年を機にユネスコスクールに加盟して



武蔵台高校では、ユネスコスクール活動を進めるにあたり「地域歴史文化研究」「国際理解・異文化理解」という2つのテーマを設定しています。学校を取り巻く地域の豊かな歴史や文化を学ぶことで、郷土に対する誇りや愛情を育てるとともに、国際社会における日本人としての役割を自覚し、旺盛な好奇心を持って国際貢献できる生徒を育てることを目標とし、活動実施体制を整えています。

目的

- 地元地域の歴史や文化に触れ、郷土とのつながりを深め、誇りを持つことができる
- 相手の立場にたって「自分にできることは何か」を常に考えることができる

活動内容

校内体制を整備していく中で、校務分掌上の位置の明確化、校内ユネスコスクール委員会の組織化、教科シラバスとの関連づけを行いました。また、これまで実施してきた既存の行事に加え、地域文化理解や国際交流をテーマとした新たな行事を企画・実施しました。



海外研修発表会

主な取り組み

- 天拝山登山：心身を鍛練するとともに、地域の歴史文化と四季の自然の美しさに親しむ
- ユネスコスクール講演会：多様な講師を招き10回に渡り実施
- 海外派遣研修：オーストラリア・シドニー、ベトナムでの学校交流、ホームステイなど
- 地域歴史文化フィールドツアー：宗像・沖ノ島関連遺産群、太宰府筑紫野地区など
- 世界一大きな授業：教育協力NGOネットワーク（JNNE）主催事業、2012のテーマは「震災から見えてきた教育の大切さ」
- グリーンウェーブ：国際生物多様性の日に植樹する活動
- 寺子屋プロジェクト：教員1名がカンボジアでの教育支援研修に参加
- ユネスコスクール他校訪問：生徒ユネスコ委員長他数名の生徒が広島大学附属高等学校を訪問



◀サマースクール



天拝山登山▶

活動のポイント

ユネスコスクール活動の定着化に向けて

現在行われている活動の定着・発展を図るため、今後の活動内容も検討されています。一つは、生徒ユネスコ委員の活性化と教職員の共通理解の確立。そして、国際理解・異文化理解をさらに進めるため、アジア圏の国々との相互交流や英語圏の国々での研修を計画しています。

学校情報

福岡県立武蔵台高等学校

学校長 ■ 上野 正裕

所在地 ■ 〒818-0053 福岡県筑紫野市天拝坂5-2-1

TEL ■ 092-925-6441 FAX ■ 092-928-0767

E-MAIL ■ info@musashidai.fku.ed.jp

福岡県立城南高等学校

福岡県

にのみや こうし
 発表者：二宮浩司 教諭

高等学校の活動



グローバル人材育成のために

教育目標の実現に向けたESDの導入

城南高校では、2010年度からキャリア教育、コミュニケーション教育、サイエンス教育を柱とする「CCSプログラム」という人材育成プランを実施し、さらに文部科学省から「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」にも指定されています。それに伴ってコミュニケーション教育の充実と異文化理解教育を進めていく必要性から、ユネスコスクールへ加盟。国内外のユネスコスクールと交流し、地域社会とも連携した教育活動を行っています。

目的

- グローバル社会における多様な他者と共生するための実践的交流力や協働する力を育てる
- 科学的な態度を持ち、主体的に行動する持続可能な社会の担い手を育てる

活動内容

生徒たちは学内外のさまざまな活動に参加しています。ユネスコ世界寺子屋運動、タイのユネスコスクールとの交流、NGOや大学と連携した地元地域の自然観察や環境保全活動等、その内容は多岐にわたり、生徒たちの異文化理解が進み、地域社会の課題を解決しようとする主体性が育ちつつあります。

主な取り組み

キャリア教育 書き損じハガキの回収プロジェクト
文化祭における不用品バザー

コミュニケーション教育 ユネスコ寺子屋プロジェクト
ユネスコ講演会
グローバルドリカム研修 in バンコク

サイエンス教育 ESDセミナー（3回実施）



◀今津干潟



長浜海岸▶

活動のポイント

ユネスコスクールとしての進化のあゆみ

2010年は年度途中からのスタートであったため、ユネスコスクール研修会や全国大会等に参加し、他校の取り組みなどを参考にしながらユネスコスクールとしての活動を始動しました。2011年から校内にユネスコ委員会を結成し、ユネスコスクールの活動を本格的にスタートさせました。2012年はこれまでの昨年の活動をさらにパワーアップし、新しい活動も開始しています。

学校情報

福岡県立城南高等学校

学校長 ■ 松谷 敏樹

所在地 ■ 〒814-0111 福岡県福岡市城南区茶山6-21-1

TEL ■ 092-831-0986 FAX ■ 092-823-0386

E-MAIL ■ jonan-h@pref.fukuoka.lg.jp

資料編

平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
ユネスコスクール地域交流会 in 関東

2012年11月23日(金・勤労感謝の日) 開催地:東京都多摩市

開催要項(改訂版)

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業の一環として文部科学省の委託を受け、多摩市教育委員会および玉川大学との共同主催により、11月23日(金・勤労感謝の日)に東京都多摩市においてユネスコスクール地域交流会 in 関東を開催いたします。

ACCU では昨年度より地域内・地域間の交流を目的として、石川県金沢市、宮城県気仙沼市でユネスコスクール地域交流会を行ってきました。「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズに、全市的にESDの推進に取り組む多摩市において、国内ユネスコスクール間のネットワーク構築を強化し、互いの成果を共有して今後の教育活動の充実にいかすことを目的といたします。

この交流会ではさかなクンの特別講義と、川をめぐる国際交流を多摩市と進める英国サウスエンド市よりゲストをお迎えして講演をいただき、ユネスコスクールとして国際的なネットワークを活用するためのヒントを模索します。

主催:文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、

共催:多摩市教育委員会、玉川大学

後援:ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)、株式会社 教育新聞社、稲城市教育委員会

1. 日時 2012年11月23日(金・勤労感謝の日) 9:30~16:45
2. 場所 パルテノン多摩 4階 第1会議室(メイン会場)
〒206-0033 東京都多摩市落合 2-35 TEL.042-375-1414
3. 対象 ユネスコスクール教職員、ユネスコスクール加盟検討中の教職員
ユネスコ活動やESDに関心のある教職員および行政職員
ESDを推進している団体、企業
ユネスコスクールおよび会場近隣の児童、生徒、学生、保護者等
4. 定員 交流会および分科会 100名
5. 参加申し込み方法
ユネスコスクール公式ウェブサイトからの登録または申込用紙によるFAX送信
定員に達した時点で申し込みを締め切ります。

ユネスコスクール地域交流会 in 関東
2012年11月23日(金・勤労感謝の日) 開催地:東京都多摩市
会場:パルテノン多摩

プログラム

09:15	開場 受付開始
09:30	開会あいさつ 文部科学省国際統括官補佐 井村 隆 多摩市長 阿部 裕行 交流会趣旨説明 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター事務局長 島津正数
09:40-10:20	特別講義 「多摩川の魚(近隣の水路を含む)」 日本ユネスコ国内委員会広報大使/海洋大学客員准教授 さかなクン
10:20-10:30	休憩-児童退出
10:30-10:45	文部科学省講演 文部科学省国際統括官補佐 井村 隆
10:45-12:25 (100min)	特別講演「川をめぐる国際交流」 ・ 多摩市教育委員会教育長 清水 哲也 ・ 講演Ⅰ「テムズから多摩へ 2012」 サウスエンド・エデュケーション・トラスト CEO サンドラ・ロバーツ ・ 講演Ⅱ「サウスエンド・オン・シーの学校生活」 チェイス高校 副校長 アリソン・ドミニー ・ 質疑応答
12:25-12:40	英語スピーチ 「多摩中学校 ユネスコスクールとしての取り組み」 多摩市立多摩中学校 生徒
12:40-14:00	昼食休憩
14:00-15:50 (110min)	分科会 1: 地域との連携 (於:学習室) 分科会 2: はぐくみたい力・学力 (於:第2会議室) 分科会 3: 学校間交流①(国内・海外) (於:第1会議室) 分科会 4: 学校間交流②(国内・海外) (於:和室2) 分科会 5: 校内体制(学校全体で取り組む仕組み) (於:第3会議室) 分科会 6: 高等学校におけるユネスコスクール活動 (於:和室)
15:50-16:00	休憩-移動
16:00-16:30	全体会 分科会振り返り (各グループ発表および総評)
16:30-16:45	閉会 奈良教育大学副学長 加藤 久雄 (ASPUivNet事務局) 稲城市教育委員会教育長 小島 文弘

平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業
ユネスコスクール地域交流会 in 九州
2013年1月11日(金) 開催地:福岡県大牟田市

開催要項

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)は平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業の一環として文部科学省の委託を受け、大牟田市教育委員会との共同主催により、「ユネスコスクール地域交流会 in 九州」を開催します。

ACCU では昨年度より地域内・地域間の交流を目的として、石川県金沢市、宮城県気仙沼市でユネスコスクール地域交流会を行ってきました。今年度は11月23日(金・祝)に「ユネスコスクール地域交流会 in 関東」を東京都多摩市で開催し、約250名の参加がありました。

それに続くこの交流会は、昨年度市立34校全ての学校がユネスコスクールの承認を受けた福岡県大牟田市において開催し、ユネスコスクールにおけるESDの推進とユネスコスクールが果たすべき役割について模索します。とりわけ、「地域との連携」、「はぐくみたい力」、「学校間交流」、「校内体制」について、全国のユネスコスクール24校が事例発表を行い、全体会での報告や意見交換を通して各テーマについて知見を更に深めます。

主催:文部科学省、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

共催:大牟田市教育委員会

後援:福岡県教育委員会、荒尾市教育委員会、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)、国立大学法人福岡教育大学、株式会社教育新聞社、株式会社有明新報社、日刊大牟田新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局

- 日時 2013年1月11日(金) 9:30~17:00
- 場所 オームタガーデンホテル 2階「鳳凰の間」「飛鳥の間」
〒836-0807 福岡県大牟田市旭町3丁目3-3 TEL. 0944-51-1111
- 対象 ユネスコスクール教職員、ユネスコスクール加盟検討中の教職員
ユネスコ活動やESDに関心のある教職員および行政職員
ESDを推進している団体、企業
ユネスコスクールおよび会場近隣の児童、生徒、学生、保護者等
- 定員 約200名
- 参加申し込み方法
ユネスコスクール公式ウェブサイトからの登録または申込用紙によるFAX送信

ユネスコスクール地域交流会 in 九州

開催日:2013年1月11日(金) 開催地:福岡県大牟田市
会場:オームタガーデンホテル 2階「鳳凰の間」「飛鳥の間」

プログラム

司会:大牟田市教育委員会 指導室 指導主事 古賀 信弘

09:00	開場 受付開始
09:30-10:00	開会あいさつ 文部科学省 国際交渉分析官 岩本 渉 大牟田市長 古賀 道雄 福岡県教育庁 教育企画部部長 城戸 秀明 交流会趣旨説明 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター事務局長 島津 正数
10:00-10:20	基調講演 文部科学省 国際交渉分析官 岩本 渉
10:20-10:30	休憩
10:30-10:45 (15min)	大牟田市のESD Part.1 あいさつ 大牟田市教育委員会教育長 宮田 忠雄 ◆ ユネスコスクールのまち大牟田 大牟田市教育委員会 指導室 指導主事 杉野 浩二
10:45-11:10 (25min)	◆ 環境教育実践事例 「知ろう! 守ろう! 吉野の自然環境」 大牟田市立吉野小学校 5年生、6年生、教職員
11:10-12:10 (60min)	特別講義 日本ユネスコ国内委員会広報大使/海洋大学客員准教授 さかなクン
12:10-12:40 (30min)	大牟田市のESD Part.2 ◆ 湯イネ踊り 大牟田市立手鎌小学校 5年生 ◆ 「子ども大牟田検定」及び「子どもサミット」の紹介 大牟田市教育委員会 指導室 指導主事 平野 正明
12:40-13:45	昼食休憩
13:45-15:25 (100min)	分科会1 地域との連携 (於:飛鳥の間 1) 分科会2 はぐくみたい力・学力 (於:飛鳥の間 2) 分科会3 学校間交流(国内・海外) (於:鳳凰の間 1) 分科会4 校内体制(学校全体で取り組む仕組み) (於:鳳凰の間 2)
15:25-15:45	休憩
15:45-16:45 (60min)	全体会 分科会振り返り (各グループ発表・質疑応答)
16:45-17:00 (15min)	閉会あいさつ 奈良教育大学副学長 加藤 久雄 (ASPUivNet 事務局) 荒尾市教育委員会教育長 丸山 秀人

ユネスコスクールガイドライン

平成24年8月20日 日本ユネスコ国内委員会

はじめに

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章^{*1}に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和28（1953）年に創設され、(1) 地球規模の問題に対する国連システムの理解、(2) 人権、民主主義の理解と促進、(3) 異文化理解、(4) 環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です^{*2}。特に、我が国では、持続発展教育（ESD）の普及促進のためにユネスコスクールを活用することとしております^{*3}。

本ガイドラインは、既加盟のユネスコスクールがより充実した活動をし、また今後加盟予定の学校等が効果的な活動を立案するために、重要と思われる事項をまとめたものです^{*4}。このガイドラインを参考に、今後より一層、ユネスコスクールの活動の質が向上し、ひいてはユネスコスクールが持続発展教育（ESD）の推進拠点として発展することを期待いたします^{*5}。

ユネスコスクールガイドライン

ユネスコスクールとして大切なこと

ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- 地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みややすくすること。
- ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- 必要に応じ、ASPUnivNet^{*6}加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

持続発展教育（ESD）推進拠点として大切なこと

ユネスコスクールが持続発展教育（ESD）推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。

- 持続発展教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- 持続発展教育（ESD）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（ESD）の理念の普及に努めること。

持続発展教育（ESD）とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、その中には、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などのテーマ・内容が含まれます。従って、持続発展教育（ESD）で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを持続発展教育（ESD）という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結び付けることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

持続発展教育（ESD）の実施においては、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」や、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育むこと」の観点が必要です。

持続発展教育（ESD）の理念は、現行の教育振興基本計画（平成20年7月策定）に盛り込まれていますし、学習指導要領（平成20年、21年公示）で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものです。

※1 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない（憲章前文）」
ユネスコは、この憲章前文にあるように、諸国民の教育、科学及び文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の共通の福祉の促進を目的として昭和21（1946）年に創設された国際連合の専門機関です。この目的は、我が国国民の深い共感を呼び、日本は昭和26（1951）年に加盟しています。

※2 現在、世界181か国に9,000校以上のユネスコスクールがあり、全世界的なネットワークを形成しています。ユネスコスクールはそのネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教員間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと、新しい教育内容や手法の開発、発展を目指しています。日本は、制度発当初から、ユネスコスクールの活動に取り組んできました。平成24（2012）年8月現在、日本国内のユネスコスクール数は、459校にまで増加しました。

※3 平成20（2008）年2月に本委員会に設置された検討会の提言によるものです。平成17（2005）年にユネスコを主導機関として開始された、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」に関する我が国の取組の一環です。

※4 現時点でユネスコスクールの活動が必ずこれらの全てに沿って実施されていなければならないという性格のものではありません。

※5 毎年1回、活動報告書を日本ユネスコ国内委員会事務局に提出することとされています。

※6 ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク。

ユネスコスクールとは

ユネスコスクール：UNESCO Associated Schools

ASPnet：UNESCO Associated Schools Project Network

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。世界180以上の国・地域で9,500校以上のユネスコスクールがあります。(2012年11月現在)

参考：ユネスコ憲章（抜粋）

第1条 目的及び任務

1 この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言葉又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

ユネスコスクールの活動目的

- ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

ユネスコスクールはESDの推進拠点です

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、その加盟校増加に取り組んでいます。

ユネスコスクール公式ウェブサイト

- ユネスコスクール公式ウェブサイトでは、ESDに関するイベントや各校の実践、役に立つ教材、ユネスコスクールをサポートする団体・機関などの情報が得られます。
- ユネスコスクール参加校には、ログインID、パスワードが発行され、グループベースでユネスコスクールの活動などについての情報発信や交換を行うことができます。
- 情報発信の仕方を分かりやすく紹介している『ユネスコスクール公式webサイト活用ガイド』のPDF版をダウンロードすることができます。
- この冊子に掲載されている47の実践事例はこのウェブサイトのグッドプラクティスのページに紹介しています。また、英語版サイトにも日本のESD活動の好事例として紹介しています。



ユネスコスクール公式ウェブサイト（日本語） >> <http://www.unesco-school.jp/>

ユネスコスクール公式ウェブサイト（英語） >> 上記 URL からリンク



幼稚園		
1	湖畔幼稚園	北海道 釧路市
2	わかばフレンド幼稚園	北海道 釧路市
3	みはらフレンド幼稚園	北海道 釧路市
4	愛国フレンド幼稚園	北海道 釧路市
5	清泉幼稚園	北海道 室蘭市
6	羅臼町立羅臼幼稚園	北海道 羅臼町
7	羅臼町立春松幼稚園	北海道 羅臼町
8	気仙沼市立馬籠幼稚園	宮城県 気仙沼市
9	かおり幼稚園	山梨県 甲斐市
10	愛知教育大学附属幼稚園	愛知県 名古屋
11	奈良市立富雄北幼稚園	奈良県 奈良市
12	奈良市立六条幼稚園	奈良県 奈良市
13	奈良市立二名幼稚園	奈良県 奈良市
14	鳳鳴乃里幼稚園	佐賀県 佐賀市
小学校		
15	厚岸町立太田小学校	北海道 厚岸町
16	石狩市立生振小学校	北海道 石狩市
17	石狩市立双葉小学校	北海道 石狩市
18	恵庭市立松恵小学校	北海道 恵庭市
19	江別市立対雁小学校	北海道 江別市
20	千歳市立緑小学校	北海道 千歳市
21	千歳市立末広小学校	北海道 千歳市
22	北海道教育大学附属釧路小学校	北海道 釧路市
23	斜里町立峰浜小学校	北海道 斜里町
24	羅臼町立羅臼小学校	北海道 羅臼町
25	羅臼町立春松小学校	北海道 羅臼町
26	留寿都村立留寿都小学校	北海道 留寿都村
27	宮城教育大学附属小学校	宮城県 仙台市
28	仙台市立中野小学校	宮城県 仙台市
29	角田市立東根小学校	宮城県 角田市
30	気仙沼市立水梨小学校	宮城県 気仙沼市
31	気仙沼市立浦島小学校	宮城県 気仙沼市
32	気仙沼市立大島小学校	宮城県 気仙沼市
33	気仙沼市立面瀬小学校	宮城県 気仙沼市
34	気仙沼市立鹿折小学校	宮城県 気仙沼市
35	気仙沼市立新城小学校	宮城県 気仙沼市
36	気仙沼市立中井小学校	宮城県 気仙沼市
37	気仙沼市立白山小学校	宮城県 気仙沼市
38	気仙沼市立階上小学校	宮城県 気仙沼市
39	気仙沼市立松岩小学校	宮城県 気仙沼市
40	気仙沼市立月立小学校	宮城県 気仙沼市
41	気仙沼市立落合小学校	宮城県 気仙沼市
42	気仙沼市立唐桑小学校	宮城県 気仙沼市
43	気仙沼市立気仙沼小学校	宮城県 気仙沼市
44	気仙沼市立九条小学校	宮城県 気仙沼市
45	気仙沼市立小原木小学校	宮城県 気仙沼市
46	気仙沼市立馬籠小学校	宮城県 気仙沼市
47	気仙沼市立津谷小学校	宮城県 気仙沼市
48	気仙沼市立大谷小学校	宮城県 気仙沼市
49	栗原市立高清水小学校	宮城県 栗原市
50	白石市立白石第二小学校	宮城県 白石市
51	白石市立白川小学校	宮城県 白石市
52	白石市立小原小学校	宮城県 白石市
53	大崎市立鳴子小学校	宮城県 大崎市
54	大崎市立鬼首小学校	宮城県 大崎市
55	大崎市立大貫小学校	宮城県 大崎市
56	大崎市立鹿島台小学校	宮城県 大崎市
57	大崎市立鹿島台第二小学校	宮城県 大崎市
58	大崎市立沼部小学校	宮城県 大崎市
59	大和町立鶴巣小学校	宮城県 大和町
60	富谷町立日吉台小学校	宮城県 富谷町
61	丸森町立金山小学校	宮城県 丸森町
62	新庄市立北辰小学校	山形県 新庄市
63	新庄市立新庄小学校	山形県 新庄市
64	新庄市立沼田小学校	山形県 新庄市
65	高崎市立六郷小学校	群馬県 高崎市
66	藤岡市立美九里西小学校	群馬県 藤岡市
67	前橋市立大胡東小学校	群馬県 前橋市
68	熊谷市立久下小学校	埼玉県 熊谷市
69	熊谷市立佐谷台小学校	埼玉県 熊谷市
70	さいたま市立新開小学校	埼玉県 さいたま市
71	市川市立中山小学校	千葉県 市川市
72	市川市立福越小学校	千葉県 市川市
73	市川市立鶴橋小学校	千葉県 市川市
74	市川市立大野小学校	千葉県 市川市
75	市原市立辰巳台西小学校	千葉県 市原市
76	千葉市立白井小学校	千葉県 千葉市
77	荒川区立尾久宮前小学校	東京都 荒川区
78	葛飾区立青戸小学校	東京都 葛飾区
79	江東区立東雲小学校	東京都 江東区
80	江東区立八名川小学校	東京都 江東区
81	新宿区立西戸山小学校	東京都 新宿区
82	世田谷区立立中里小学校	東京都 世田谷区
83	東京学芸大学附属大泉小学校	東京都 練馬区
84	聖心女子学院初等科	東京都 港区
85	目黒区立五本木小学校	東京都 目黒区
86	小笠原村立小笠原小学校	東京都 小笠原村
87	小笠原村立馬島小学校	東京都 小笠原村
88	稲城市立稲城第二小学校	東京都 稲城市
89	稲城市立向陽台小学校	東京都 稲城市
90	稲城市立稲城第六小学校	東京都 稲城市
91	清瀬市立清明小学校	東京都 清瀬市
92	多摩市立永山小学校	東京都 多摩市
93	多摩市立西落合小学校	東京都 多摩市
94	多摩市立貝取小学校	東京都 多摩市
95	多摩市立豊ヶ丘小学校	東京都 多摩市
96	多摩市立北諏訪小学校	東京都 多摩市
97	多摩市立南鶴牧小学校	東京都 多摩市
98	多摩市立東寺方小学校	東京都 多摩市
99	多摩市立多摩第二小学校	東京都 多摩市
100	多摩市立多摩第三小学校	東京都 多摩市
101	多摩市立東愛宕小学校	東京都 多摩市
102	多摩市立蓮光寺小学校	東京都 多摩市
103	多摩市立大松台小学校	東京都 多摩市
104	多摩市立多摩第一小学校	東京都 多摩市
105	多摩市立聖ヶ丘小学校	東京都 多摩市
106	多摩市立瓜生小学校	東京都 多摩市
107	調布市立布田小学校	東京都 調布市
108	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県 横浜市
109	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	神奈川県 鎌倉市
110	新潟市立下山小学校	新潟県 新潟市
111	新潟市立上山小学校	新潟県 新潟市
112	柏崎市立北鱒石小学校	新潟県 柏崎市
113	佐渡市立相川小学校	新潟県 佐渡市
114	十日町市立飛渡第一小学校	新潟県 十日町市
115	見附市立見附小学校	新潟県 見附市
116	見附市立田井小学校	新潟県 見附市
117	見附市立上北谷小学校	新潟県 見附市
118	見附市立見附第二小学校	新潟県 見附市
119	見附市立今町小学校	新潟県 見附市
120	見附市立名木野小学校	新潟県 見附市
121	見附市立葛巻小学校	新潟県 見附市
122	見附市立新潟小学校	新潟県 見附市
123	新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟県 長岡市
124	富山市立中央小学校	富山県 富山市
125	富山市立寒江小学校	富山県 富山市
126	富山市立五福小学校	富山県 富山市
127	富山市立光陽小学校	富山県 富山市
128	氷見市立朝日丘小学校	富山県 氷見市
129	富山市立堀川小学校	富山県 富山市
130	金沢市立浅野川小学校	石川県 金沢市
131	金沢市立朝日小学校	石川県 金沢市
132	金沢市立金石町小学校	石川県 金沢市
133	金沢市立材木町小学校	石川県 金沢市
134	金沢市立四十万小学校	石川県 金沢市
135	金沢市立田上小学校	石川県 金沢市
136	金沢市立戸板小学校	石川県 金沢市
137	金沢市立野町小学校	石川県 金沢市
138	金沢市立森山町小学校	石川県 金沢市
139	金沢市立弥生小学校	石川県 金沢市
140	金沢市立中央小学校	石川県 金沢市
141	金沢市立花園小学校	石川県 金沢市
142	金沢市立鞍月小学校	石川県 金沢市
143	金沢市立三馬小学校	石川県 金沢市
144	金沢市立味噌蔵町小学校	石川県 金沢市
145	金沢市立三谷小学校	石川県 金沢市
146	金沢市立長坂台小学校	石川県 金沢市
147	金沢市立西小学校	石川県 金沢市
148	金沢市立大野町小学校	石川県 金沢市
149	金沢市立押野小学校	石川県 金沢市
150	金沢市立内川小学校	石川県 金沢市
151	金沢市立湯涌小学校	石川県 金沢市
152	金沢市立十一屋小学校	石川県 金沢市
153	金沢市立明成小学校	石川県 金沢市
154	金沢市立千坂小学校	石川県 金沢市
155	金沢市立夕日寺小学校	石川県 金沢市
156	金沢市立葉崎小学校	石川県 金沢市
157	金沢市立犀川小学校	石川県 金沢市
158	金沢市立南小立野小学校	石川県 金沢市
159	金沢市立伏見台小学校	石川県 金沢市
160	金沢市立扇台小学校	石川県 金沢市
161	金沢市立泉野小学校	石川県 金沢市
162	金沢市立小立野小学校	石川県 金沢市
163	金沢市立米泉小学校	石川県 金沢市
164	金沢市立柱の里小学校	石川県 金沢市
165	輪島市立三井小学校	石川県 輪島市
166	内灘町立向栗崎小学校	石川県 内灘町
167	内灘町立清湖小学校	石川県 内灘町
168	内灘町立鶴ヶ丘小学校	石川県 内灘町
169	内灘町立大根布小学校	石川県 内灘町
170	内灘町立西荒屋小学校	石川県 内灘町
171	能美市立粟生小学校	石川県 能美市
172	福井市立鳴鹿小学校	福井県 福井市
173	南アルプス市立芦安小学校	山梨県 南アルプス市
174	岐阜市立島小学校	岐阜県 岐阜市
175	静岡サレジオ小学校	静岡県 静岡市
176	あま市立基目寺小学校	愛知県 あま市
177	安城市立里町小学校	愛知県 安城市
178	岡崎市立梅園小学校	愛知県 岡崎市
179	岡崎市立常磐南小学校	愛知県 岡崎市
180	岡崎市立城南小学校	愛知県 岡崎市
181	岡崎市立男川小学校	愛知県 岡崎市
182	名古屋市立東築地小学校	愛知県 名古屋市
183	名古屋市立愛知小学校	愛知県 名古屋市
184	名古屋市立有松小学校	愛知県 名古屋市
185	名古屋市立八熊小学校	愛知県 名古屋市
186	愛知教育大学附属名古屋小学校	愛知県 名古屋市
187	檀山女学園大学附属小学校	愛知県 名古屋市
188	西尾市立西尾小学校	愛知県 西尾市
189	東浦町立緒川小学校	愛知県 東浦町
190	鈴鹿市立飯野小学校	三重県 鈴鹿市

191	鈴鹿市立神戸小学校	三重県 鈴鹿市
192	鈴鹿市立牧田小学校	三重県 鈴鹿市
193	名張市立蔵持小学校	三重県 名張市
194	名張市立名張小学校	三重県 名張市
195	名張市立箕曲小学校	三重県 名張市
196	名張市立桔梗が丘小学校	三重県 名張市
197	名張市立薦原小学校	三重県 名張市
198	名張市立国津小学校	三重県 名張市
199	彦根市立城西小学校	滋賀県 彦根市
200	京都市立上賀茂小学校	京都府 京都市
201	京都市立乾隆小学校	京都府 京都市
202	京都市立紫竹小学校	京都府 京都市
203	京都市立下京成小学校	京都府 京都市
204	京都市立梅津北小学校	京都府 京都市
205	大阪市立御幸森小学校	大阪府 大阪市
206	豊中市立上野小学校	大阪府 豊中市
207	豊中市立新田小学校	大阪府 豊中市
208	豊中市立桜井谷小学校	大阪府 豊中市
209	松原市立三宅小学校	大阪府 松原市
210	松原市立恵我南小学校	大阪府 松原市
211	河内長野市立美加の台小学校	大阪府 河内長野市
212	奈良市立飛鳥小学校	奈良県 奈良市
213	奈良市立帯解小学校	奈良県 奈良市
214	奈良市立清美小学校	奈良県 奈良市
215	奈良市立佐保川小学校	奈良県 奈良市
216	奈良市立椿井小学校	奈良県 奈良市
217	奈良市立鳥見小学校	奈良県 奈良市
218	奈良市立二名小学校	奈良県 奈良市
219	奈良市立佐保小学校	奈良県 奈良市
220	奈良市立鼓阪小学校	奈良県 奈良市
221	奈良市立清美南小学校	奈良県 奈良市
222	奈良市立鶴舞小学校	奈良県 奈良市
223	奈良市立都跡小学校	奈良県 奈良市
224	奈良市立鼓阪北小学校	奈良県 奈良市
225	橿原市立今井小学校	奈良県 橿原市
226	和歌山市立広瀬小学校	和歌山県 和歌山市
227	田辺市立三栖小学校	和歌山県 田辺市
228	矢掛町立三谷小学校	岡山県 矢掛町
229	矢掛町立中川小学校	岡山県 矢掛町
230	矢掛町立矢掛小学校	岡山県 矢掛町
231	岡山市立第一藤田小学校	岡山県 岡山市
232	岡山市立第三藤田小学校	岡山県 岡山市
233	岡山市立第二藤田小学校	岡山県 岡山市
234	岡山市立蛸明小学校	岡山県 岡山市
235	岡山市立福田小学校	岡山県 岡山市
236	岡山市立建部小学校	岡山県 岡山市
237	岡山市立足守小学校	岡山県 岡山市
238	岡山市立竹枝小学校	岡山県 岡山市

239	岡山市立福瀬小学校	岡山県 岡山市
240	岡山市立甲浦小学校	岡山県 岡山市
241	岡山市立小串小学校	岡山県 岡山市
242	広島大学附属小学校	広島県 広島市
243	大竹市立栗谷小学校	広島県 大竹市
244	海田町立海田東小学校	広島県 海田町
245	北広島町立豊平東小学校	広島県 北広島町
246	北広島町立新庄小学校	広島県 北広島町
247	福山市立内海小学校	広島県 福山市
248	福山市立駅家西小学校	広島県 福山市
249	四万十町立七里小学校	高知県 四万十町
250	三豊市立下高瀬小学校	香川県 三豊市
251	松山市立新玉小学校	愛媛県 松山市
252	藍住町立藍住南小学校	徳島県 藍住町
253	藍住町立藍住北小学校	徳島県 藍住町
254	藍住町立藍住西小学校	徳島県 藍住町
255	藍住町立藍住東小学校	徳島県 藍住町
256	大牟田市立駿馬南小学校	福岡県 大牟田市
257	大牟田市立駿馬北小学校	福岡県 大牟田市
258	大牟田市立菅原小学校	福岡県 大牟田市
259	大牟田市立天道小学校	福岡県 大牟田市
260	大牟田市立玉川小学校	福岡県 大牟田市
261	大牟田市立上官小学校	福岡県 大牟田市
262	大牟田市立大正小学校	福岡県 大牟田市
263	大牟田市立中友小学校	福岡県 大牟田市
264	大牟田市立明治小学校	福岡県 大牟田市
265	大牟田市立白川小学校	福岡県 大牟田市
266	大牟田市立平原小学校	福岡県 大牟田市
267	大牟田市立高取小学校	福岡県 大牟田市
268	大牟田市立三池小学校	福岡県 大牟田市
269	大牟田市立銀水小学校	福岡県 大牟田市
270	大牟田市立上内小学校	福岡県 大牟田市
271	大牟田市立吉野小学校	福岡県 大牟田市
272	大牟田市立倉永小学校	福岡県 大牟田市
273	大牟田市立手鎌小学校	福岡県 大牟田市
274	大牟田市立大牟田小学校	福岡県 大牟田市
275	大牟田市立羽山台小学校	福岡県 大牟田市
276	大牟田市立みなと小学校	福岡県 大牟田市
277	大牟田市立天鏡小学校	福岡県 大牟田市
278	玄海町立徳小学校	佐賀県 玄海町
279	玄海町立徳賀小学校	佐賀県 玄海町
280	宇城市立小川小学校	熊本県 宇城市
281	宇城市立海東小学校	熊本県 宇城市
中学校		
282	札幌市立手稲西中学校	北海道 札幌市
283	北海道教育大学附属札幌中学校	北海道 札幌市
284	北広島市立西部中学校	北海道 北広島市
285	羅臼町立羅臼中学校	北海道 羅臼町

286	羅臼町立春松中学校	北海道 羅臼町
287	仙台市立南吉成中学校	宮城県 仙台市
288	岩沼市立岩沼中学校	宮城県 岩沼市
289	大河原町立金ヶ瀬中学校	宮城県 大河原町
290	大河原町立大河原中学校	宮城県 大河原町
291	宮城県立立角田中学校	宮城県 角田市
292	気仙沼市立面瀬中学校	宮城県 気仙沼市
293	気仙沼市立気仙沼中学校	宮城県 気仙沼市
294	気仙沼市立鹿折中学校	宮城県 気仙沼市
295	気仙沼市立階上中学校	宮城県 気仙沼市
296	気仙沼市立新月中学校	宮城県 気仙沼市
297	気仙沼市立唐桑中学校	宮城県 気仙沼市
298	気仙沼市立大島中学校	宮城県 気仙沼市
299	気仙沼市立条南中学校	宮城県 気仙沼市
300	気仙沼市立小原中学校	宮城県 気仙沼市
301	気仙沼市立松岩中学校	宮城県 気仙沼市
302	気仙沼市立大谷中学校	宮城県 気仙沼市
303	気仙沼市立津谷中学校	宮城県 気仙沼市
304	白石市立小原中学校	宮城県 白石市
305	白石市立白川中学校	宮城県 白石市
306	白石市立東中学校	宮城県 白石市
307	白石市立南中学校	宮城県 白石市
308	大崎市立田尻中学校	宮城県 大崎市
309	大崎市立古川北中学校	宮城県 大崎市
310	南三陸町立志津川中学校	宮城県 南三陸町
311	大仙市立大曲南中学校	秋田県 大仙市
312	新庄市立新庄中学校	山形県 新庄市
313	足利市立山辺中学校	栃木県 足利市
314	宇都宮市立一条中学校	栃木県 宇都宮市
315	越谷市立富士中学校	埼玉県 越谷市
316	成田市立玉造中学校	千葉県 成田市
317	大田区立大森第六中学校	東京都 大田区
318	江東区立深川第一中学校	東京都 江東区
319	江東区立第二南砂中学校	東京都 江東区
320	聖心女子学院中等科	東京都 港区
321	稲城市立稲城第四中学校	東京都 稲城市
322	多摩市立東栗岩中学校	東京都 多摩市
323	多摩市立調訪中学校	東京都 多摩市
324	多摩市立聖ヶ丘中学校	東京都 多摩市
325	多摩市立多摩中学校	東京都 多摩市
326	多摩市立和田中学校	東京都 多摩市
327	多摩市立青陵中学校	東京都 多摩市
328	多摩市立鶴牧中学校	東京都 多摩市
329	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	神奈川県 鎌倉市
330	横浜市立立ヶ尾中学校	神奈川県 横浜市
331	新潟市立巻東中学校	新潟県 新潟市
332	新潟市立白新中学校	新潟県 新潟市
333	新潟市立横越中学校	新潟県 新潟市

334	新潟市立赤塚中学校	新潟県 新潟市
335	新潟市立宮浦中学校	新潟県 新潟市
336	見附市立今町中学校	新潟県 見附市
337	長岡市立南中学校	新潟県 長岡市
338	新潟大学教育学部附属長岡中学校	新潟県 長岡市
339	南魚沼市立大巻中学校	新潟県 南魚沼市
340	富山大学人間発達科学部附属中学校	富山県 富山市
341	金沢市立紫錦台中学校	石川県 金沢市
342	金沢市立泉中学校	石川県 金沢市
343	金沢市立芝原中学校	石川県 金沢市
344	金沢市立内川中学校	石川県 金沢市
345	金沢市立小沢町中学校	石川県 金沢市
346	金沢市立兼六中学校	石川県 金沢市
347	内灘町立内灘中学校	石川県 内灘町
348	小松市立板津中学校	石川県 小松市
349	七尾市立能登香島中学校	石川県 七尾市
350	七尾市立朝日中学校	石川県 七尾市
351	能美市立根上中学校	石川県 能美市
352	敦賀気比高等学校付属中学校	福井県 敦賀市
353	南アルプス市立芦安中学校	山梨県 南アルプス市
354	信州大学教育学部附属松本中学校	長野県 松本市
355	伊豆市立天城中学校	静岡県 伊豆市
356	静岡大学教育学部附属島田中学校	静岡県 島田市
357	岡崎市立根上中学校	愛知県 岡崎市
358	岡崎市立新香山中学校	愛知県 岡崎市
359	名古屋市立丸の内中学校	愛知県 名古屋市
360	名古屋市立汐路中学校	愛知県 名古屋市
361	名古屋市立笠島中学校	愛知県 名古屋市
362	鈴鹿市立神戸小学校	三重県 鈴鹿市
363	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	三重県 鈴鹿市
364	三重大学教育学部附属中学校	三重県 津市
365	名張市立北中学校	三重県 名張市
366	名張市立南中学校	三重県 名張市
367	東近江市立五箇荘中学校	滋賀県 東近江市
368	豊中市立第十一中学校	大阪府 豊中市
369	豊中市立第二中学校	大阪府 豊中市
370	寝屋川市立寝屋川第十中学校	大阪府 寝屋川市
371	松原市立松原第七中学校	大阪府 松原市
372	尼崎市立成良中学校	兵庫県 尼崎市
373	奈良教育大学附属中学校	奈良県 奈良市
374	奈良市立興東中学校	奈良県 奈良市
375	奈良市立立ヶ瀬中学校	奈良県 奈良市
376	奈良市立三笠中学校	奈良県 奈良市
377	奈良市立柳生中学校	奈良県 奈良市
378	奈良市立平城西中学校	奈良県 奈良市
379	奈良市立二名中学校	奈良県 奈良市
380	奈良市立都南中学校	奈良県 奈良市
381	奈良市立京西中学校	奈良県 奈良市

382	奈良市立富雄中学校	奈良県 奈良市
383	橿原市立欽傍中学校	奈良県 橿原市
384	和歌山市立伏虎中学校	和歌山県 和歌山市
385	岡山市立藤田中学校	岡山県 岡山市
386	岡山市立福田中学校	岡山県 岡山市
387	岡山市立建部中学校	岡山県 岡山市
388	岡山市立光南台中学校	岡山県 岡山市
389	岡山市立京山中学校	岡山県 岡山市
390	岡山市立足守中学校	岡山県 岡山市
391	山陽学園中等部	広島県 廿日市市
392	広島大学附属中学校	広島県 広島市
393	広島市立古田中学校	広島県 広島市
394	如水館中学校	広島県 三原市
395	周南市立太華中学校	山口県 周南市
396	防府市立佐波中学校	山口県 防府市
397	大牟田市立船津中学校	福岡県 大牟田市
398	大牟田市立石京中学校	福岡県 大牟田市
399	大牟田市立米生中学校	福岡県 大牟田市
400	大牟田市立勝立中学校	福岡県 大牟田市
401	大牟田市立延命中学校	福岡県 大牟田市
402	大牟田市立松原中学校	福岡県 大牟田市
403	大牟田市立白光中学校	福岡県 大牟田市
404	大牟田市立歴木中学校	福岡県 大牟田市
405	大牟田市立田隈中学校	福岡県 大牟田市
406	大牟田市立橘中学校	福岡県 大牟田市
407	大牟田市立甘木中学校	福岡県 大牟田市
408	北九州市立尾倉中学校	福岡県 北九州市
409	福岡市立元岡中学校	福岡県 福岡市
410	宇城市立不知火中学校	熊本県 宇城市
411	北谷町立北谷中学校	沖縄県 北谷町
中高一貫等		
412	北海道登別明日中等教育学校	北海道 登別市
413	釧路市立山花小中学校	北海道 釧路市
414	標茶町立中茶安別小中学校	北海道 標茶町
415	斜里町立ウトロ小中学校	北海道 斜里町
416	宮城県仙台二華中学校・高等学校	宮城県 仙台市
417	仙台育英学園秀光中等教育学校	宮城県 多賀城市
418	聖ウルスラ学院英智小中学校	宮城県 仙台市
419	茨城県立並木中等教育学校	茨城県 つくば市
420	市川中学校・市川高等学校	千葉県 市川市
421	渋谷教育学園幕張中学・高等学校	千葉県 千葉市
422	麗澤中学・高等学校	千葉県 柏市
423	東京都足立区興本扇学園	東京都 足立区
424	昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校	東京都 世田谷区
425	田園調布学園中等部・高等部	東京都 世田谷区
426	雙葉中学校・高等学校	東京都 千代田区
427	東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都 練馬区
428	晃華学園中学校・高等学校	東京都 調布市

429	武蔵野女子学院中学校・高等学校	東京都 西東京市
430	新潟県立燕中等教育学校	新潟県 燕市
431	山梨英和中学校・高等学校	山梨県 甲府市
432	不二聖心女子学院	静岡県 裾野市
433	星陵中学校・高等学校	静岡県 富士宮市
434	名古屋大学教育学部附属中・高等学校	愛知県 名古屋市
435	立命館守山中学校・高等学校	滋賀県 守山市
436	平安女学院中学・高等学校	京都府 京都市
437	燈影学園（一燈園小学校・中学校・高等学校）	京都府 京都市
438	浪速中学校・高等学校	大阪府 大阪市
439	大阪学芸中等教育学校	大阪府 大阪市
440	帝塚学院泉ヶ丘中学校高等学校	大阪府 堺市
441	箕面市立彩都の丘学園	大阪府 箕面市
442	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県 奈良市
443	奈良市田原小中学校	奈良県 奈良市
444	奈良市立富雄第三小中学校	奈良県 奈良市
445	清心中学校・清心女子高等学校	岡山県 倉敷市
446	広島県立広島中学・高等学校	広島県 広島市
447	高水高等学校付属中学校／高水高等学校	山口県 岩国市
高等学校		
448	市立札幌大通高等学校	北海道 札幌市
449	札幌山の手高等学校	北海道 札幌市
450	北海道遠軽高等学校	北海道 遠軽町
451	北海道清里高等学校	北海道 清里町
452	北海道斜里高等学校	北海道 斜里町
453	海星学院高等学校	北海道 室蘭市
454	北海道羅臼高等学校	北海道 羅臼町
455	北海道礼文高等学校	北海道 礼文町
456	盛岡中央高等学校	岩手県 盛岡市
457	宮城県気仙沼高等学校	宮城県 気仙沼市
458	宮城県気仙沼西高等学校	宮城県 気仙沼市
459	秋田市立秋田商業高等学校	秋田市 秋田市
460	明桜高等学校	秋田市 秋田市
461	福島県立安達高等学校	福島県 二本松市
462	国際学院高等学校	埼玉県 伊奈町
463	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県 坂戸市
464	千葉県立市川高等学校	千葉県 市川市
465	千葉県立国分高等学校	千葉県 市川市
466	市原中央高等学校	千葉県 市原市
467	千葉県立佐倉南高等学校	千葉県 佐倉市
468	千葉県立流山おおたかの森高等学校	千葉県 流山市
469	千葉県立千葉東高等学校	千葉県 千葉市
470	渋谷教育学園渋谷高等学校	東京都 渋谷区
471	東京都立杉並総合高等学校	東京都 杉並区
472	筑波大学附属駒場高等学校	東京都 世田谷区
473	東京都立三田高等学校	東京都 港区
474	聖心女子学院高等科	東京都 港区
475	八王子学園八王子高等学校	東京都 八王子市

476	慶應義塾高等学校	神奈川県 横浜市
477	神奈川県立有馬高等学校	神奈川県 海老名市
478	富山国際大学付属高等学校	富山県 富山市
479	福井工業大学附属福井高等学校	福井県 福井市
480	新潟県立国際情報高等学校	新潟県 南魚沼市
481	岐阜聖徳学園高等学校	岐阜県 岐阜市
482	静岡県立伊豆総合高等学校	静岡県 伊豆市
483	愛知県立刈谷高等学校	愛知県 刈谷市
484	愛知県立豊田東高等学校	愛知県 豊田市
485	愛知県立千種高等学校	愛知県 名古屋市中
486	名古屋立立山田高等学校	愛知県 名古屋市中
487	中部大学第一高等学校	愛知県 日進市
488	三重県立木本高等学校	三重県 熊野市
489	大阪府立北淀高等学校	大阪府 大阪市
490	大阪府立住吉高等学校	大阪府 大阪市
491	明浄学院高等学校	大阪府 大阪市
492	大阪府立西淀川高等学校	大阪府 大阪市
493	大阪府立市岡高等学校	大阪府 大阪市
494	大阪教育大学附属高等学校池田校舎	大阪府 池田市
495	大阪府立佐野高等学校	大阪府 泉佐野市
496	大阪府立長野高等学校	大阪府 河内長野市
497	羽衣学園高等学校	大阪府 高石市
498	大阪府立能勢高等学校	大阪府 能勢町
499	大阪府立枚方高等学校	大阪府 枚方市
500	大阪府立松原高等学校	大阪府 松原市
501	大阪府立北摂つばさ高等学校	大阪府 茨木市
502	大阪府立富田林高等学校	大阪府 富田林市
503	神戸市立葺合高等学校	兵庫県 神戸市
504	兵庫県立三木北高等学校	兵庫県 三木市
505	奈良県立法隆寺国際高等学校	奈良県 斑鳩町
506	和歌山県立星林高等学校	和歌山県 和歌山市
507	和歌山県立串本古座高等学校	和歌山県 串本町
508	島根県立島根中央高等学校	島根県 川本町
509	岡山県立岡山一宮高等学校	岡山県 岡山市
510	岡山学芸館高等学校	岡山県 岡山市
511	岡山龍谷高等学校	岡山県 笠岡市
512	岡山県美作高等学校	岡山県 津山市
513	岡山県立矢掛高等学校	岡山県 矢掛町
514	岡山県立和気岡谷高等学校	岡山県 和気町
515	広島大学附属高等学校	広島県 広島市
516	広島県立広島国泰寺高等学校	広島県 広島市
517	広島県立広島井口高等学校	広島県 広島市
518	山陽高等学校	広島県 広島市
519	広島県立尾道北高等学校	広島県 尾道市
520	広島県立呉三津田高等学校	広島県 呉市
521	山陽女子学園中等部	広島県 廿日市市
522	広島県立福山誠之館高等学校	広島県 福山市
523	広島県立安芸府中高等学校	広島県 府中町

524	如水館高等学校	広島県 三原市
525	広島県立三次高等学校	広島県 三次市
526	広島県立府中高等学校	広島県 府中市
527	香川県立観音寺中央高等学校	香川県 観音寺市
528	香川県立高松桜井高等学校	香川県 高松市
529	愛媛県立新居浜南高等学校	愛媛県 新居浜市
530	福岡県立城南高等学校	福岡県 福岡市
531	福岡県立香住丘高等学校	福岡県 福岡市
532	福岡県立ひびき高等学校	福岡県 北九州市
533	福岡県立武蔵台高等学校	福岡県 筑紫野市
大学		
534	国立大学法人宮城教育大学	東京都 練馬区
535	玉川大学（教育学部）	東京都 世田谷区
536	愛知教育大学	東京都 稲城市
537	国立大学法人三重大学	東京都 稲城市
538	国立大学法人奈良教育大学	徳島県 徳島市
高等専門学校		
539	国立石川工業高等専門学校	東京都 立川市
養護学校		
540	見附市立見附特別支援学校	神奈川県 横浜市
541	大牟田市立大牟田特別支援学校	京都府 京田辺市
その他		
542	練馬和光保育園	大阪府 茨木市
543	もみの木保育園太子堂	東京都
544	もみの木保育園若葉台	東京都
545	もみの木保育園長峰	東京都
546	ナーサリー富田幼児園	徳島県
547	東京賢治シュタイナー学園	東京都
548	横浜シュタイナー学園	神奈川県
549	京田辺シュタイナー学校	京都府
550	コリア国際学園	大阪府

文部科学省委託事業 平成24年度日本/ユネスコパートナーシップ事業

**ユネスコスクール地域交流会 in 関東・九州
発表事例集**

学校&みんなのESDプロジェクト
ひろがり つながるESD実践事例

発行日 2013年3月15日
発 行 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
〒162-8484 東京都新宿区袋町6 日本出版会館
TEL : 03-3269-4435 FAX : 03-3269-4510
URL : <http://www.accu.or.jp/>
E-mail : webmaster@accu.or.jp

編集協力・デザイン 株式会社ジェイ・スパーク
印刷・製本 株式会社ワコー